

2019年度

講義要項

緑地環境学科

西日本短期大学

目 次

緑地環境学科

< 1 年次開講科目 >

基礎科目

英語Ⅰ	1
英語Ⅱ	2
スポーツ理論と実践	3
生物学	4
茶道文化Ⅰ	5
茶道文化Ⅱ	6
キャリアデザイン	7
ポートフォリオデザイン	8

専門科目

総合実習	9
ランドスケープデザイン論	12
造園史	13
庭園設計論	14
造園樹木学	15
樹木学実習	16
環境設計演習Ⅰ	17
造園施設設計演習	18
コンピュータ実習Ⅰ	19
測量学	20
測量実習Ⅰ	21
緑地計画学	22
エコロジー概論	23
樹木医学	24
土壌学	25
造園土木材料論	26
草花と園芸	27
緑地管理実習Ⅰ	28
緑地管理実習Ⅱ	29
フラワーデザイン基礎	30
学外研修	31
企業実習	32
環境ボランティア演習	33

資格等に関する科目

ビオトープ演習	34
---------	----

< 2 年次開講科目 >

専門科目

ゼミナール	35
ガーデニング実習	40
植物育成管理学	41
環境設計演習Ⅱ	42
環境設計演習Ⅲ	43
コンピュータ実習Ⅱ	44
測量実習Ⅱ	45
造園施工管理論	46
都市計画	47
住環境論	48
環境保全論	49
景観論	50
植物病理学	51
造園昆虫・動物学演習	52
農薬・肥科学	53
造園関係法規	54
緑地管理演習	55
ガーデン管理演習	56
フラワー装飾	57
フラワーコーディネーション	58
園芸福祉	59
企業実習	60
環境ボランティア演習Ⅱ	61

資格等に関する科目

造園施工管理演習	62
----------	----

英語 I

English I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 基礎・選択 》

1 年

担 当 者

西 村 紀 子

授 業 到 達 標 目

中学までに学んだ基礎的な文法、語彙を確認しながら、日常会話に必要な表現を中心に学習を進める。英語力に必要な基本的文法構造を学び、習得し基礎的語学力を身につける。

授 業 内 容

日常会話でよく使う表現の「文型」を多くあげ、自分で文を組み立てる練習を楽しく行っていきます。

準備学習等の内 容

復習の徹底。毎回授業の始めに前回の授業の復習を行います。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	コースの目標と内容の説明	
2	品詞について	
3	一般動詞と Be 動詞を区別する	
4	練習	
5	時制（現在形、過去形、現在進行形、過去進行形）	
6	練習	
7	文の種類（肯定文、否定文、疑問文）	
8	練習	
9	頻度の高い動詞句（希望、予定、強制）	
10	練習	
11	接続詞で短文をつなぐ	
12	練習	
13	疑問詞を使う疑問文	
14	練習	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
教科書なし 必要に応じてプリント配布	「英会話の基本文型87」	平常点（70%）+ 期末テスト（30%）

英語Ⅱ

English II

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 基礎・選択 》

1 年

担 当 者

西 村 紀 子

授 業 到 達 標 目

英語Ⅰで学んだ基礎文法を応用して活用できるようにする。日常の身の回りの事柄を自分の言葉で発話できるようにする。

授 業 内 容

ロールプレイ、ペアワークによる練習。英語の音を学び、抵抗なく発話する力を身につける。

準 備 学 習 等 の 内 容

復習の徹底。毎回授業の始めに前回の授業の復習を行います。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	基礎文法の確認		
2	クラスルームランゲージ		
3	「人」が中心の表現		
4	練習		
5	「もの」が中心の表現		
6	練習		
7	助動詞を使った表現		
8	練習		
9	完了		
10	練習		
11	依頼、命令表現		
12	練習		
13	勧誘表現		
14	練習		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
教科書なし。 必要に応じてプリント配布		「英会話の基本文型87」	平常点(70%) + 期末テスト(30%)

スポーツ理論と実践

Sports Theory and Exercise

《 1単位(演習) / 1年前期 / 基礎・選択 》

1年

担当者

佐藤 功一

授業到達
目

- ・日常生活における運動・スポーツの重要性を理解し、生涯を通してスポーツを楽しむことができる。
- ・実施するスポーツのルールを理解し、実践できる。
- ・スポーツを通し、チームメイトや相手との積極的なコミュニケーションが取れる。

授業内容

健康スポーツ、球技、ラケットスポーツ、アダプテッドスポーツ（障がい者スポーツ）、ニュースポーツなどを実施します。

準備学習等の
内容

1回目の授業より、身体を動かしますので、①スポーツに相應しい服、②体育館シューズが必要になります。各自で準備してください。スポーツに相應しくない服装（アクセサリ類は外すこと、長い爪は切ること）での参加は一切認めません。スポーツが苦手な人でも、問題ありません。

授業計画等

授業テーマ		
1	ガイダンス・スポーツ体験	
2	健康スポーツ①	
3	健康スポーツ②	
4	健康スポーツ③	
5	球技①	
6	球技②	
7	球技③	
8	球技④	
9	球技⑤	
10	ラケットスポーツ①	
11	ラケットスポーツ②	
12	ラケットスポーツ③	
13	ラケットスポーツ④	
14	アダプテッドスポーツ	
15	ニュースポーツ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じて、資料を配布します。	観るまえに読む大修館スポーツルール2018	受講態度50%・課題50%

生物学

Biology

1年

《 2単位(講義) / 1年前期 / 基礎・選択 》

担 当 者

清 水 進

授 業 到 達 標

劇的に展開しつつある現在の生物学への入り口として、生物学の基礎的な知識の習得を目指します。また、私たちの生活を豊かにするバイオテクノロジーへの造詣を深めます。

授 業 内 容

生物学の基礎を中心にして、動物、植物および微生物の生命現象を説明します。また、自然環境についても様々な観点から解説いたします。

準備学習等の内 容

日頃より身近な自然、生物およびバイオテクノロジーに興味を持ち、積極的に授業に参加して下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス 生物の世界		
2	生物の分類 種、分類群の階級、大分類		
3	生命の単位 分子から細胞		
4	単細胞と多細胞		
5	生体内の働き 代謝と酵素		
6	エネルギーおよび物質の流れと生命活動		
7	生殖と発生 生殖様式と生活環		
8	遺伝と変異 遺伝子と染色体		
9	遺伝と変異 分子遺伝学		
10	遺伝と変異 バイオテクノロジー		
11	生物の集団と個体群		
12	生物群集とその変動		
13	生態系とその平衡		
14	環境問題と自然保護		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
必要に応じて資料を配布します。		生命科学のための基礎シリーズ「生物」実教出版	筆記試験60%、レポート20%および受講態度20%で評価する。

茶道文化 I

Culture of Tea Ceremony I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 基礎・選択 》

1 年

担 当 者

黒 岩 富美枝

授 業 到 達 目 標

茶の湯は、日本古来のもてなしの文化と言われています。「一服のお茶を点てて出し、おいしく飲んでいただく」茶の湯の原点です。また相手に対する心づかいや気配りを大切にしています。

- ・日常生活の中で、点前として取入れやすい盆点前（テーブル茶）で、自分自身へ、家族や身近な知人に、点ててふるまうことができることを目的とする（夏休み実施して下さい）

授 業 内 容

- ・講義と実技で進めていく。

1. 茶の湯の歴史 2. 茶室（和室）の成り立ちと和室での基本所作 3. 茶の湯の道具
4. 客の心得 5. 水屋の仕事 6. 割稽古 7. 盆点前
美術館の見学を予定

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・四季折々の大自然の恵を知ることにより、人としての感性が磨かれ、心を豊かにするものがあります。小さな事でも自分で感じ、知る努力をして下さい。
- ・茶室では、白のソックスを準備して下さい。
- ・茶室での最低限度のマナーは、①道具類は大切に扱う②静かに過ごす

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	茶の湯とは？（オリエンテーション）
2	薄茶の点前を見る（つくばいの使い方）
3	和室（茶室）の成り立ち ①基本所作（立居） 今日のお茶は？
4	〃 ②基本所作（挨拶・歩き方・襦の開閉） 今日のお軸は？
5	水屋の仕事 ・茶の湯の道具とは 道具の手入れと保存（日常に使うものについて）
6	客としての心得 ①席入り（挨拶他）
7	〃 ②菓子と薄茶のいただき方
8	割稽古（基本） ①服紗の扱い
9	〃 ②茶筥通し、茶巾の扱い
10	〃 ③茶碗のふき方・茶杓の清め
11	盆点前（テーブル茶） ・客をもてなすこと
12	〃 ・お運びについて／菓子と菓子器／菓子の盛り方
13	電子レンジで作る和菓子 実践（調理室）
14	日本・中国・朝鮮・東南アジア・西洋の美術品と茶の湯
15	福岡東洋陶磁美術館の見学（茶道具の鑑賞）

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

そのつどプリントを配布

江戸千家
「基本の点前」

受講態度30%
課題レポート70%

茶道文化Ⅱ

Culture of Tea Ceremony Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 基礎・選択 》

1 年

担 当 者

黒 岩 富美枝

授 業 到 達 標

- ・ 茶の湯は、伝統工芸、美術工芸など日本文化を代表する総合芸術です。茶室などの建築・露地を含む庭、書、やきもの、工芸や料理、菓子にまでおよびます。興味を持ち、自国の文化を外国の人々に紹介でき、国際人としての自信をつけて下さい。
- ・ 世界に一つだけの自分オリジナル茶杓を作ります。

授 業 内 容

1. 総合芸術としての茶の湯（露地、やきもの、茶道具、掛け物、料理他）
2. 風炉の運び点前（柄杓の使い方、点前の流れ）
3. 風炉と炉の違い（炭・香・釜・花入） 4. 炉の運び点前
5. 茶事・接待について 6. 茶杓作り 7. 風呂敷の使い方

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・ 正座ができるようになりました。再度自分の姿勢が正しく凛としているか？指先にまで気を配ってあいさつできているか意識して下さい。
- ・ 相手を思い、気配りをして身近な人に一服さし上げて下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	総合芸術としての茶の湯／露地について 風炉と炉について		
2	風炉の薄茶点前 柄杓の使い方		
3	〃 ①客をもてなすこと、お運びについて、半東の動き		
4	〃 ②床と掛け物		
5	〃 ③花と花入		
6	〃 ④やきもの		
7	季節と茶道具 季節と行事、歳時記と銘について		
8	炉の薄茶点前 ①炭について		
9	〃 ②炭について 香合と香について		
10	〃 ③「銘」について（歳時記と銘）		
11	〃 ④客として動具の拝見の仕方		
12	〃 ⑤濃茶の飲み方		
13	茶事・接待について懐石の流れ（懐石の基本、懐石の道具）		
14	茶杓作り（オリジナル）説明と作成		
15	風呂敷の使い方 まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
そのつど プリントを配布		江戸千家 「基本の点前」	受講態度20% レポート60% 作成した茶杓20%

キャリアデザイン

Career Design

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 基礎・必修 》

1 年

担 当 者

佐々木一成・西川 真水・高宮さやか・田上 博・菊川 裕幸

授 業 到 達 標 目

10年後、20年後も充実した生活を送ることができるような人生設計を行う。

授 業 内 容

短大を卒業すると、学生生活を締めくくり、就職して働くこととなります。短大での2年間は学生から社会人への大事な移行期間です。本科目では、みなさんのキャリア（職歴）だけでなく、人生設計（ライフデザイン）も視野に入れ、どのように働き、どんな生活を送っていくのかを、考える科目です。職業についてや、今後の人生設計を考えるために、教員だけでなく多くの先輩や、社会人の方の話を聞き、自分の将来を考え、就職活動に臨み、卒業後に充実した人生を送ることができる、キャリアデザインを行う科目です。

準備学習等の内 容

日頃から自分の生活を見直し、夢に向かって努力する。

授業計画等

授業テーマ

1	自己紹介、クラス代表選出学科 コース・キャリアデザインについて
2	ポートフォリオ0：ポートフォリオと学習歴
3	ノートのとり方・レポートの書き方
4	ポートフォリオ1：写真の撮り方と、活用
5	ポートフォリオ2：自分の特徴・経験を整理する
6	職能ガイダンス(1)：職域と取り扱う空間・環境
7	職能ガイダンス(2)：職能と企業研究
8	職能ガイダンス(3)：社会人から学ぶ／社会の話題
9	ポートフォリオ3：実習のまとめ1
10	職能ガイダンス(4)：資格ガイダンス
11	ポートフォリオ4：実習のまとめ2
12	◇進路ガイダンス：就職模擬試験
13	ライフデザイン・キャリアデザイン（コース選択）
14	ポートフォリオ5：実習のまとめ3
15	ポートフォリオ6：自分の学習履歴をまとめる

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

学生のためのキャリアデザイン
入門（中央経済社）

受講態度60%、レポート40%

ポートフォリオデザイン

Portfolio Design

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 基礎・必修 》

1 年

担 当 者

佐々木一成・西川 真水・高宮さやか・田上 博・菊川 裕幸

授 業 到 達 標 目

- ・自分がこれまでにやってきた様々な経験を整理する。
- ・自分自身が主役のポートフォリオの作成を行う。
- ・就職活動に向け準備を行う。

授 業 内 容

学生のみなさんは2年間という短い時間の中でプロフェッショナルとして成長しなければなりません。学んだことをただ「やった」「できた」「終わった」で済ましてしまわず、さらにそれをまとめ(復習)し、評価し、さらに課題を見つけること(予習)にしなければなりません。そして、ゆったりとするまもなく就職・進学という場面を迎えることになります。単なる履歴・学歴が意味をもつことはなくなっていますし、企業(さらにいうならばクライアント)は、(出)ではなく、投資ににあう、企業を成長させてくれる人材を求めています。みなさんは、攻めの視点で戦略的に進路を切り開かなければいけません。そんなときにいかに自分をプレゼンテーションしていくかも重要になってきます。自分の経歴・学習歴をまとめ、自分自身で振り返るとともに、就職活動に活用できるポートフォリオを作成しましょう。

準 備 学 習 等 の 内 容

1. 実習日報、野帳、ノート、普段から整理しておくこと。
2. 実習や演習の写真をしっかりとること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	自己分析		
2	◇進路ガイダンス：適性検査		
3	ポートフォリオ：実習のまとめ		
4	職能ガイダンス(5)・・・社会人から学ぶ／業界の話題		
5	履歴書の書き方		
6	ポートフォリオ7：レイアウトの基本と表紙のデザイン		
7	◇進路ガイダンス：適性検査結果配布および解説		
8	ポートフォリオ8：実習のまとめ4		
9	ポートフォリオ9：実習のまとめ5		
10	ゼミナールガイダンス		
11	◇マナー講座		
12	ポートフォリオ10：実習のまとめ6		
13	就職活動にむけて(服装編)		
14	職能ガイダンス(6)・・・社会人から学ぶ／業界の話題		
15	ポートフォリオ11：全体のまとめと展開		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリント		「就職活動ハンドブック」 株式会社ディスコ	ポートフォリオ50%、受講態度30%、レポート20%

総合実習（ガーデンデザイン）

General Practical Training

《 2単位(実習) / 1年通年 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

菊川 裕幸・高宮さやか

授 業 到 達 目 標

緑化植物の植栽や育成・管理、また造園の骨格をなす石組み、各種庭・公園の修景物施工等の実体験を通して、造園技能の基礎を体得すること。専門講義科目で得た知識をフィードバックして実習する事により、理論と実技の関連づけ、より実践的な理解を促す事を目的とする。

授 業 内 容

少人数の班編成により、下記の授業計画に基づいて実施する。
前期終盤では造園技能検定2、3級の技能検定課題に取り組む。(未経験者は3級から)。2級取得済みの学生には別途プログラムを準備する。(資格の種類によっては材料費が発生することもある)
後期は環境設計演習と連携した実習を実施する。

準備学習等の内 容

雨天決行です。事故につながらないように、真剣な心構えで臨む事。毎回きちんと学んだ内容を野帳に記録し、日報を提出すること。
日頃から植物や造園に関する書籍や雑誌に目を通し知識を増やす事。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ			
週	前 期	週	後 期
1	オリエンテーション	1	草花園芸（色彩）
2	学外実習（海の中道見学会）	2	草花園芸（堆肥・土壌）
3	生物調査	3	園芸装飾
4	ハンギングバスケット	4	基本石組工
5	玉掛け・クレーン	5	ガーデン石組み（レンガ組工）
6	剪定工	6	草花園芸（花壇）
7	剪定工	7	草花園芸（播種）
8	増殖工	8	ハンギングバスケット
9	草花園芸	9	小空間の造型・施工
10	間伐・林内整理	10	小空間の造型・施工
11	技能検定（ガイダンス・竹垣）	11	小空間の造型・施工
12	技能検定（縁石）	12	小空間の造型・施工
13	技能検定（敷石）	13	小空間の造型・施工
14	技能検定（整地）	14	小空間の造型・施工
15	技能検定（全校定）	15	小空間の造型・施工
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
造園施工必携		樹木ガイドブック ガーデンデザイン入門	日報、野帳の記録と提出、受講態度と技術習得の度合いを総合的に評価。 受講態度50%、提出物30%、技術習得20%

総合実習（造園芸術）

General Practical Training

《 2単位(実習) / 1年通年 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

菊川 裕幸・高宮さやか

授 業 到 達 目 標

緑化植物の植栽や育成・管理、また造園の骨格をなす石組み、各種庭・公園の修景物施工等の実体験を通して、造園技能の基礎を体得すること。専門講義科目で得た知識をフィードバックして実習する事により、理論と実技の関連づけ、より実践的な理解を促す事を目的とする。

授 業 内 容

少人数の班編成により、下記の授業計画に基づいて実施する。
前期終盤では造園技能検定2、3級の技能検定課題に取り組む。(未経験者は3級から)。2級取得済みの学生には別途プログラムを準備する。(資格の種類によっては材料費が発生することもある)
後期は環境設計演習と連携した実習を実施する。

準備学習等の内 容

雨天決行です。事故につながらないように、真剣な心構えで臨む事。毎回きちんと学んだ内容を野帳に記録し、日報を提出すること。
日頃から植物や造園に関する書籍や雑誌に目を通し知識を増やす事。

授業計画等

授 業 テ ー マ			
週	前 期	週	後 期
1	オリエンテーション	1	コンクリート工
2	学外実習（海の中道見学会）	2	基礎石組工
3	生物調査	3	滝・流れ石組工
4	ハンギングバスケット	4	移植
5	玉掛け・クレーン	5	移植
6	剪定工	6	蹲・石灯籠・延段工
7	剪定工	7	蹲・石灯籠・延段工
8	増殖工	8	病虫害防除
9	草花園芸	9	小空間の造型・施工
10	間伐・林内整理	10	小空間の造型・施工
11	技能検定（ガイダンス・竹垣）	11	小空間の造型・施工
12	技能検定（縁石）	12	小空間の造型・施工
13	技能検定（敷石）	13	小空間の造型・施工
14	技能検定（整地）	14	小空間の造型・施工
15	技能検定（全工程）	15	小空間の造型・施工
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
造園施工必携		造園施工管理技術編 樹木ガイドブック	日報、野帳の記録と提出、受講態度と技術習得の度合いを総合的に評価。受講態度50%、提出物30%、技術習得20%

総合実習（自然環境デザイン）

General Practical Training

《 2単位(実習) / 1年通年 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

菊川 裕幸・高宮さやか

授 業 到 達 目 標

緑化植物の植栽や育成・管理、また造園の骨格をなす石組み、各種庭・公園の修景物施工等の実体験を通して、造園技能の基礎を体得すること。専門講義科目で得た知識をフィードバックして実習する事により、理論と実技の関連づけ、より実践的な理解を促す事を目的とする。

授 業 内 容

少人数の班編成により、下記の授業計画に基づいて実施する。
前期終盤では造園技能検定2、3級の技能検定課題に取り組む。(未経験者は3級から)
2級取得済みの学生には別途プログラムを準備する。(資格の種類によっては材料費が発生することもある)
後期は環境設計演習と連携した実習を実施する。

準備学習等の内 容

雨天決行です。事故につながらないように、真剣な心構えで臨む事。毎回きちんと学んだ内容を野帳に記録し、日報を提出すること。
日頃から植物や造園に関する書籍や雑誌に目を通し知識を増やす事。

授業計画等

授 業 テ ー マ					
週	前 期		週	後 期	
1	オリエンテーション		1	基礎石組工	
2	学外実習（海の中道見学会）		2	滝・流れ石組工	
3	生物調査		3	ビオトープ石組工	
4	ハンギングバスケット		4	移植	
5	玉掛け・クレーン		5	移植	
6	剪定工		6	植生調査	
7	剪定工		7	植生調査	
8	増殖工		8	ビオトープ管理	
9	草花園芸		9	小空間の造型・施工	
10	間伐・林内整理		10	小空間の造型・施工	
11	技能検定（ガイダンス・竹垣）		11	小空間の造型・施工	
12	技能検定（縁石）		12	小空間の造型・施工	
13	技能検定（敷石）		13	小空間の造型・施工	
14	技能検定（整地）		14	小空間の造型・施工	
15	技能検定（全工程）		15	小空間の造型・施工	
教科書(必須)		参考書・参考文献		評価基準	
造園施工必携		造園施工管理技術編 樹木ガイドブック		日報、野帳の記録と提出、受講態度と技術習得の度合いを総合的に評価。受講態度50%、提出物30%、技術習得20%	

ランドスケープデザイン論

Landscape Design

《 2単位(講義) / 1年後期 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

西 川 真 水

授 業 到 達 目 標

造園・ランドスケープのデザインを行うための基礎的なボキャブラリーの獲得。
空間・環境におけるデザインの考え方、デザインプロセスを理解できるようになる。

授 業 内 容

私達を取り巻く環境は大きく「自然環境」と「社会(人文)環境」とに分けられます。しかし皆さんの学ぶ職能域は、この両方の環境の良好な関係をいかに形成していくかと言うところに独自性があります。本講義ではただ単に「モノ」のデザインにこだわらず「コト」という状況・現象のデザインとしてのランドスケープデザインを考え、農村や生物の生息空間から地域、建築、インテリア、プロダクト、そして最後に国内外のランドスケープデザインまでを横断します。

準 備 学 習 等 の 内 容

前回の講義を復習。参考図書などの該当部分を読んでおく。
自分のまち、福岡のまちの庭園や公園、都市の景観、そして二丈キャンパスや各所にある先輩たちの作品をよく見ておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	イントロダクション		
2	ランドスケープの世界1：自然環境とそのとらえ方		
3	ランドスケープの世界2：人文・社会環境とそのとらえ方		
4	ランドスケープエコロジー、自然環境と共生、緑地環境と生き物と空間		
5	都市近郊農村と環境のデザイン、都市の水環境		
6	景観と文化の多様性：庭園の空間デザインを事例に		
7	都市環境とデザイン：地域計画とランドスケープデザイン		
8	都市環境とデザイン：建築・アーバンデザイン		
9	身の回りのデザイン：インテリア、プロダクトデザインと環境		
10	地形とランドスケープのデザイン		
11	都市・住居と環境のデザイン		
12	ランドスケープデザインとスケール		
13	ランドスケープデザインの形態操作と概念操作		
14	ランドスケープデザインの用強美		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリントを配布		「ランドスケープデザインの視座」 宮城俊作/学芸出版社	試験結果70%、講義ノート20%、レポート10%

造園史

Garden History

《 2単位(講義) / 1年前期 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

西 川 真 水

授 業 到 達 標

造園・ランドスケープに関する歴史観を形成するための時代の流れと基礎知識を学び、造園・ランドスケープの様々な技術や空間のポキャブラリーを習得する。

授 業 内 容

造園・ランドスケープの歴史を近代以前の庭園の時代とそれ以降の都市の時代に分け、前半は日本の庭園の歴史とヨーロッパを中心とする庭園の歴史について講義し、後半は都市空間における近代以降の造園の歴史として都市公園の成立や田園都市・郊外など緑地計画の歴史について講義する。

準 備 学 習 等 の 内 容

中学、高校の日本史、世界史の教科書を振り返っておく。また、国内の日本庭園や都市公園などを訪れておくとよい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	造園の語源とランドスケープの語源、日本の造園の起源		
2	奈良時代・平安時代・鎌倉時代・南北朝時代の庭園		
3	室町時代・安土桃山時代の庭園		
4	室町時代・安土桃山時代の庭園		
5	江戸時代の庭園		
6	ヨーロッパ・古代の造園と都市空間		
7	中世の庭園、スペインの庭園		
8	イタリアルネサンス期の庭園とフランス式庭園の完成と他国への影響		
9	イギリス風景式庭園の形成と変化		
10	都市公園の形成（欧米）		
11	都市公園の形成（欧米）と田園都市		
12	日本における都市公園の形成		
13	現代の造園		
14	現代の造園		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリントを配布		「日本の庭園」進士五十八／中公新書 都市緑地の計画と設計／内山正雄／彰国社	試験70%、ノート・レポート30%

庭園設計論

Theory of Garden Planning and Design

《 2 単位(講義) / 1 年後期 / 専門・選択 》

1 年

担 当 者

久保田 家 且

授 業 到 達
目 標

日本庭園と西洋庭園の相違点や日本庭園の様式及び日本庭園の基本的技法等知識の習得。
また、庭園設計をするために必要な基礎調査や設計手法を学び、単に、庭園を整備するだけでなく、庭園の設計もできる造園家になるための知識の習得を目標とする。

授 業 内 容

庭園を我が国の伝統的な日本庭園と西洋庭園に大別し、各々の特徴を論じるとともに、主に、日本庭園を構成する諸施設や庭園材料並びに設計フローや設計手法等の詳細を講義する。
さらに、実際に行われた庭園設計の実例を紹介し、その庭園を見学するとともに評価する。

準 備 学 習 等 の
内 容

- ①日本庭園関連図書を多く読むこと。
- ②授業で出てきた有名な庭園等を調査し見学すること。百聞は一見に如かず

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス、庭園概論		
2	日本庭園様式		
3	日本庭園の基本的技法		
4	庭園材料		
5	庭園施設、工作物		
6	庭園設計 I		
7	庭園設計 II		
8	庭園設計 III		
9	庭園設計 IV		
10	庭園設計の実際 I		
11	庭園設計の実際 II		
12	庭園見学		
13	庭園設計の実際 III		
14	庭園設計の実際 IV		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリント配布		「日本の庭園」進士五十八 中央公論新社 「造園施工管理技術編」日本公園 緑地協会造園施工管理委員会	受講態度 10点 レポート 30点 試 験 60点

造園樹木学

Landscape Tree & Shrubs

《 2単位(講義) / 1年前期 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

大 石 道 義

授 業 到 達 標

1. 造園樹木材料について豊かに精通し、造園家として使いこなし得るようになること。
2. 「植物と人間の」のよりよい関係について常に考え、その橋渡し役として、社会的ニーズやヒューマンニーズを適確に把握するとともに、豊かなリソースにて現代社会や現代人に価値ある植栽計画（緑地生活と自然環境保全）を提示できるようになること。
3. 自分自身で学修していきける検索方法や応用展開能力を身につける。

授 業 内 容

1. 植物及び樹木の分類と命名
2. 植物と衣食住・産業・風景・文化・クオリティ・オブ・ライフ・セラピー・歳時記
3. 植物の形態・生理・管理の基本
4. 造園植物材料の生産・流通
5. 押し葉制作
6. 樹木検索
7. 造園植栽の意義と要件
8. 代表的な花木・庭木・公園樹・街路樹

準 備 学 習 等 の 内 容

1. 実習場の樹木を季節の変容を含めて、常々、観察やスケッチ、撮影を行なうこと。
2. 授業要点録としての野帳・日報等を、時折、ふりかえって学ぶこと。
3. 図鑑類等による、常々の学習を怠らないこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス、造園材料の概念及び分類	植物及び樹木の諸分類と造園の分類	植物と人間の関わり
2	植物の形態、植物の命名及び、命名からの樹木名の覚え方、植物の生理と環境耐性・管理		
3	造園植物材料の生産流通・規格、造園植物の要件		
4	造園樹木の増殖と生産の実際		
5	押し葉の制作 葉面水彩プリント制作		
6	主要な庭園樹・公園樹・街路樹 (1)		
7	〃	〃	〃 (2)
8	〃	〃	〃 (3)
9	木竹工芸体験 (園芸福祉・環境福祉)		
10	樹木検索/広葉樹 (1)		
11	〃	/	〃 (2)
12	〃	/	〃 (3)
13	樹木検索/針葉樹 (1)		
14	〃	/	〃 (2)
15	樹木鑑定試験		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「樹木ガイドブック」 上原敬二、朝倉書店 「葉で見分ける樹木 増補改訂版」 林将之、小学館 「改訂造園施工管理 技術編」 日本公園緑地協会編集発行 「くらしを楽しむ 庭木の本」 講談社		「グリーンセイバー—植物と自然の基礎を学ぶ」岩槻那男監修、研成社 「身近な木の実・植物の種図鑑&採集ガイド」多田多恵子、実業之日本社 「小学館の図鑑・NEO ②植物」小学館 「写真でみる植物用語」岩瀬徹・大野啓一 全国農村教育協会 「日本の樹木」林弥栄監修、山と溪谷社 「ランドスケーププラント」 浅野二郎ら監修、ワールド出版	学科試験40%、樹木鑑定試験及び同小試験30%、提出課題及び日報30%により総合的に評価

樹木学実習

Tree & Shrubs Practice

《 1 単位(実習) / 1 年後期 / 専門・必修 》

1 年

担 当 者

大 石 道 義

授 業 到 達 標

1. 造園樹木学や植物基礎学の履修を基礎として、科・属的視点及び植栽計画及び管理的視点で、各樹木の特性を修得する。現地現物的学修を重んじる。
2. 実習場におけるマイクロかつマクロな観察・スケッチ、押し葉制作、育成管理を重視する。
3. 社会的ニーズやヒューマンニーズを適確に把握するとともに、豊かなりソースにてリーゾナブルな植栽計画を提示できるようになること。

授 業 内 容

1. 二丈キャンパス樹木園において、「科・属」毎に主要樹種について、鑑定・植栽・育成・管理・鑑賞・造園の用途・暮らし産業的用途等の視点で修得していく。
2. 解説担当樹種については責任をもって調査研修した成果を樹木園現地において、発表する。
3. 樹木の押し葉とデータシートを、授業・自習により指定用紙にてセットで作成し、ファイルを作成する。各樹木及び樹木園の維持管理作業を励行する。
4. 実物鑑定試験を定期的実施するとともに修得度の図表化・みえる化に努める。

準 備 学 習 等 の 内 容

1. 実習場の樹木についての、常々の観察・スケッチ・押し葉制作の習慣をつける。
2. 野張・日報・ポートフォリオ等を習慣的に作成し、かつ復習する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス、海岸林樹木観察調査	
2	樹木各論 まつ科 ひのき科、他	
3	樹木増殖	
4	樹木鑑定試験、樹木園樹木マップ、樹木ラベル制作・管理	
5	樹木各論 にれ科 もくれん科、他	
6	くすのき科 ゆきのした科、他	
7	樹木園樹木マップ作成、樹木ラベル制作・管理	
8	ばら科、他	
9	まめ科 かえで科、他	
10	樹木園樹木マップ作成、樹木ラベル制作・管理	
11	もくせい科、他	
12	すいかずら科、他	
13	植栽用途別・耐性別・適性別まとめ、リースづくり	
14	樹木鑑定試験、竹標本園研修	
15	新しいニーズ・樹種	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「樹木ガイドブック」 上原敬二、朝倉書店 「葉で見分ける樹木 増補改訂版」 林将之、小学館 「改訂造園施工管理 技術編」 日本公園緑地協会編集発行 「くらしを楽しむ 庭木の本」 講談社	「グリーンセイバー—植物と自然の基礎を学ぶ」岩槻那男監修、研成社 「小学館の図鑑・NEO②植物」小学館 「日本の樹木」林弥栄監修、山と溪谷社 「ランドスケーププランツ」 浅野二郎ら監修、ワールド出版 「身近な木の実・植物の種図鑑&採集ガイド」多田多恵子、実業之日本社	樹木鑑定試験及び同小試験 (30%)・担当樹木現地解説の評価 (10%)・提出課題【樹木押し葉及びデータシートファイル・樹木園樹木マップ・日報・ポートフォリオ etc.】(60%)により総合評価

環境設計演習 I

Landscape Design Practice I

《 4単位(演習) / 1年通年 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

西 川 真 水

授 業 到 達 目 的

前期：ランドスケープ・造園・緑化などに関係する図面を理解できるようになる。密度やスケール感覚を磨く。デザインのためのコミュニケーション力を身につける。
後期：自らデザインした図面と実際に施工された実体との関係を実感する。

授 業 内 容

緑地環境で取り扱う対象空間・環境は多岐にわたり、その敷地のスケールや規模によってさまざまな視点から空間と向き合うことが求められる。本演習では、単に設計のテクニックにとどまることのみでなく、緑地環境空間におけるデザイン行為にかかわる基礎的な考え方、手法、実際の空間をどのようにあつかうのかという作法を学ぶ。
後期は前期で学んできたことを踏まえ、与えられた小空間の設計に取り組む。コースごとに別それぞれにテーマ・設計条件を設定し、平面図・詳細図等を作成する。このデザインをもとに二丈キャンパスで総合実習・緑地管理実習Ⅱに移行し施工段階に入る。したがって、後半は福浜と二丈(曜日がことなります)と平行した形式での実習となる。

準 備 学 習 等 の 内 容

自分のまちや福岡のまちを自分の足で歩き、公園、庭園、広場、住宅地、インテリア、里山など様々な緑・ランドスケープ空間を体験しておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期
1	緑地環境にかかわる図面：平面図へのカラーリング	1	小空間のデザイン：班ごとにテーマ設定
2	植物のかたち：高木の樹形の模型製作	2	基本構想：敷地の課題・問題点と評価のワークショップ
3	みどりウォッチング：地域の緑環境の調査	3	計画平面図：デザインコードの設定
4	みどりウォッチング：地域の緑環境の調査	4	〃
5	みどりウォッチング：地域の緑環境の調査	5	〃
6	ワークショップの方法：プレーンストーミング	6	詳細図及び材料数量表
7	ワークショップの方法：プレーンストーミング	7	〃 及び工程表
8	緑地環境にかかわるスケールの考え方：空間の大きさ	8	施工計画書作成
9	植栽の密度・間隔・感じ方	9	断面詳細図
10	植栽の密度・間隔・感じ方	10	〃
11	植栽の密度・間隔・感じ方	11	〃
12	地形の見方：地形と等高線	12	積算と見積り
13	地形の見方：地形模型	13	積算の方法
14	地形の見方：レベルの取扱いと階段	14	プレゼンテーションボード作成
15	地形の見方：レベルの取扱いと階段	15	プレゼンテーションボード作成
教科書(必須)		参考書・参考文献	
プリントを配布する		評価基準	
		課題成果品90%、演習態度10%	
		造園図面の表現と描法 造園図面の表現と描法Ⅱ／野沢清・小坂橋二三男／誠文堂新光社	

造園施設設計演習

Landscape Facilities Design Practice

《 2 単位(演習) / 1 年前期 / 専門・選択 》

1 年

担 当 者

佐々木 一 成

授 業 到 達
目 標

造園・ランドスケープに関わる設計の基本を習得する。
造園・ランドスケープ・関係分野に関わる計画設計図書を理解できるようになること。

授 業 内 容

この講義では、造園・ランドスケープに関わる設計作図技術の基本を学ぶ。線の引き方から、平面図、立面図、パースの作図方法と表現方法を実際に製図を行いながら学び、実際の空間の見学や実測も取り入れながら、計画設計と実際の空間のとの関係も学んでいきます。最低限必要な基本的な表現方法を習得し、環境設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲや様々な空間制作へのステップアップを行います。

準備学習等の
内 容

製図の技術は、日常的な練習が大切です。単に課題をこなすのみならず、日頃からスケッチをしたり線を引く練習をしましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	本演習の概要説明		
2	設計の留意事項		
3	園路・広場		
4	修景施設（池・流れ・給排水）		
5	〃		
6	〃（噴水）		
7	休養施設（ベンチ・パーゴラ）		
8	〃		
9	遊戯・運動施設		
10	教養施設		
11	サービス・管理施設（垣・門・塀）		
12	〃		
13	バリアフリー・防災施設		
14	自然育成施設		
15	まとめ・最終課題の提出		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「やさしい造園図面の描き方」 編集：建築資料研究社／建築資料研究社		造園施工管理 技術編／日本公園緑地協会 造園作品選集／日本造園学会	課題 80%、受講態度 20%

コンピュータ実習 I

Practice in Computer I

《 2単位(実習) / 1年通年 / 専門・必修 》

1年

担 当 者

(前期) 関 洋輔・佐々木一成 (後期) 松本 静香・佐々木一成

授 業 到 達 目 標

コンピュータの使い方をマスターしポートフォリオを完成させること

授 業 内 容

パーソナルコンピュータを使った文章作成やプレゼンテーションの基礎を学びます。社会ではパソコンを使えることは、特別なことではなく、最低限必要な技術となっています。コンピュータ実習 I では、パソコンの使い方やプレゼンテーションの技術を、ポートフォリオの作成と設計演習等のプレゼンテーションを通して学んでいきます。

準備学習等の
内 容

積極的にコンピュータを利用して文章の作成や情報の検索など行っておいください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期		
1	ガイダンス (ログオン・ファイルの保存など)	1	illustrator 1 : イラストレーターの基礎		
2	WORD 1 : による簡単な文章作成	2	illustrator 2 : 絵を書く		
3	WORD 2 : レイアウトと画像・表の挿入	3	illustrator 3 : ロゴマーク作成		
4	WORD 3 : 簡単なポスターを作成	4	Photoshop 1 : フォトショップの基礎		
5	インターネットによる情報発信	5	Photoshop 2 : 写真画像の補正		
6	Excel 1 : 基礎と簡単な計算	6	illustrator と Photoshop の連携		
7	Excel 2 : 簡単な表計算	7	ポートフォリオ作成 3		
8	Excel 3 : 文字列の操作や検索・書式設定	8	ポートフォリオ作成 3		
9	Excel 4 : 表計算ソフトを使った測量計算	9	簡単な地理情報システム体験		
10	ポートフォリオ作成 1	10	簡単な地理情報システム体験		
11	ポートフォリオ作成 2	11	CAD 1 : AutoCAD 入門		
12	PowerPoint 1 : プレゼンテーションの基礎	12	CAD 2 : 簡単な絵を書く		
13	PowerPoint 2 : プレゼンテーション作成	13	CAD 3 : CAD による 3D 体験		
14	PowerPoint 3 : 模擬発表会	14	プレゼンテーション作成		
15	発表会用プレゼンテーション作成	15	プレゼンテーション作成		
教科書(必須)		参考書・参考文献		評価基準	
適時プリントを配布する		情報活用力(noa 出版)		課題への意欲 (30%) 課題 (70%) で評価	

測量学

Survey

《 4 単位(講義) / 1 年通年 / 専門・選択 》

担 当 者

田 上 博

授 業 到 達 目 標

造園・ガーデンデザイン・自然環境の仕事につく際に必要となる平板測量や水準測量など最低限の知識を身につけることを目標にします。

授 業 内 容

測量とは、地表・地中・空中など人間の生活領域における所定の位置関係の情報を、要求される精度を考慮しながら処理し、数値や図（地図や図面）で表現することです。
測量学は、造園・林業技術者にとっても国土開発・保全・利用の計画・設計・施工に欠くことが出来ない重要な学問です。関数電卓は必ず必要です。

準 備 学 習 等 の 内 容

高校で勉強する数学の知識が必要です。特に角度・三角関数がわかるようになっておくこと

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期		
1	測量学の基礎知識	1	角測量について		
2	測量学の基礎知識	2	角測量について		
3	測量学の基礎知識	3	角測量について		
4	測量における誤差の取り扱いについて	4	閉合トラバース測量		
5	距離測量について	5	閉合トラバース測量		
6	距離測量における誤差の取り扱い	6	閉合トラバース測量		
7	距離測量における誤差の取り扱い	7	結合トラバース測量		
8	平板測量について	8	結合トラバース測量		
9	平板測量について	9	結合トラバース測量		
10	平板測量について	10	求積		
11	水準測量について	11	求積		
12	水準測量について	12	三角測量		
13	水準測量について	13	三角測量		
14	水準測量について	14	三角測量		
15	まとめ	15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献		評価基準	
「測量学Ⅰ」 提隆 著 (コロナ社) プリント配布		「図解 測量学要論」 (日本測量協会)		前期、後期とも筆記試験を実施する。評価の配分は試験70%課題30%とする。	

測量実習 I

Survey Practicing I

《 2単位(実習) / 1年通年 / 専門・選択 》

1年

担 当 者

田 上 博

授 業 到 達 標 目

測量機器を使って測量出来るようになること。平板、オートレベル、セオドライトの操作をマスターする。

授 業 内 容

測量学で学んだ事を実際に行うことでより深く理解するための実習です。測量の手順や器械の操作方法はもちろんのこと、観測したデータの処理方法を含め、実践的な実習を二丈キャンパスで行います。前期の最後には、環境設計演習で設計する実習用地の測量を行ない、総合実習で、設計したものを総合実習で施工する。
関数電卓が必ず必要です。

準備学習等の内 容

測量学で理論を勉強します

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期		
1	オリエンテーション 計算基礎	1	セオドライト取り扱い		
2	測量計算について (電卓の使い方を含む)	2	単測法		
3	距離測量	3	単測法		
4	平板測量 (平板とアリダードの取り扱い)	4	単測法		
5	平板測量	5	倍角法		
6	平板測量	6	倍角法		
7	平板測量	7	倍角法		
8	水準測量 (レベルの取り扱い)	8	実技試験		
9	水準測量	9	トラバース測量		
10	水準測量	10	トラバース測量		
11	水準測量	11	トラバース計算		
12	実習用地の平板測量	12	トラバース計算		
13	実習用地の平板測量	13	製図		
14	実習用地の水準測量	14	製図		
15	まとめ	15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献		評価基準	
「良くわかる測量実習」 細川吉晴他著 (コロナ社) プリント配布		「図解 測量学要論」 (日本測量協会)		実習態度30%、日報および課題の評価30%、試験40%とする。	

緑地計画学

Theory of Open Space and Planning

《 2単位(講義) / 1年前期 / 専門・選択 》

1年

担 当 者

久保田 家 且

授 業 到 達 目 標

緑地の意義及び制度等を理解するとともに、各種緑地の計画と確保手法を提案できるような基本的な知識を習得することを目標とする。

授 業 内 容

本講義では、地球規模ではなく地域の良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の場の確保に寄与する緑地の計画を論じる。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ①都市内で良好な緑地を目にした場合、公共緑地か、民有緑地か。また、どのような手法で確保・管理しているかなど常に意識して観察すること。
- ②都市公園法、都市計画法及び都市緑地法等を一読すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	緑地の変遷 I		
3	緑地の変遷 II		
4	緑地の定義と機能・効果		
5	緑地制度 I (規制)		
6	緑地制度 II (規制)		
7	緑地制度 III (事業)		
8	緑地制度 IV (事業)		
9	緑地制度 V (誘導・啓発)		
10	緑化啓発の実際		
11	緑の基本計画		
12	緑地計画の展開		
13	現地見学		
14	緑地の将来展望		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリント配布		「都市緑地の計画と設計」内山正雄 (株彰国社) 「都市緑地の創造」平田富士雄 (株朝倉書店)	受講態度 10点 レポート 30点 試 験 60点

エコロジー概論

Introduction to Ecology

《 2単位(講義) / 1年前期 / 専門・選択 》

1年

担 当 者

宮 島 淳 二

授 業 到 達 目 標

エコロジーに関する基本的な事項についての学習を中心に、エコロジーの視点から広く自然現象に興味を持ってもらうためのリアルタイムの話題、応用的なトピックなどを織り交ぜながら、「基本-応用」連携の講義をおこなう。

授 業 内 容

生物と環境との関係、生物と生物との相互関係、生物を介した物質の循環など、生物の生活に関する科学がエコロジー(生態学)である。緑地環境のデザインや管理の質は、エコロジー的な背景を持って取り組むことにより、格段に向上する。この授業は、エコロジーという見方から周囲の環境を眺め、自然物の適切な取り扱いについて考える力を身につけることを主目標としている。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・テキストや配布プリント等による予習復習に努めること。
- ・身の回りの自然に関心を持ち、自然のしくみをより深く理解しようと努めること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	ガイダンス 身近な自然に目を向ける力	
2	草と木の形と生活	
3	樹木という生き方・植物の上陸から被子植物の繁栄まで	
4	世界の森林・日本の森林	
5	植物の分布・暖かさの指数	
6	植生遷移・自然林と二次林	
7	里山生態系と竹林拡大問題	
8	物質循環とエネルギーの流れ	
9	生物濃縮と江戸の循環型社会	
10	適応・生物間相互作用	
11	松枯れ被害にみられる複雑な共生関係	
12	生物の多様性と外来生物	
13	生物の多様性と絶滅危惧種	
14	ビオトープとミチゲーション	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
・「絵でわかる生態系のしくみ」 鷺谷いづみ、講談社	・「グリーンセイバー—植物と自然の基礎を学ぶ」岩槻那男監修、研成社 ・「生態学入門」原口昭編著、生物研究社 ・地球環境から学ぼう！私たちの未来第2巻このままでは地球はどうなる？ 塩瀬治編、星の環会	受講態度(10%)、学科試験(50%)、提出課題(40%)

樹木医学

Tree Health Science

1年

《 2単位(講義) / 1年後期 / 専門・選択 》

担 当 者

清 水 進

授 業 到 達 標

樹木医学とは、「樹木の構造と機能を理解し、病気すなわち機能不全の現象を研究し、その診断・治療・予防の方法を開発し、樹木の保全を図る学問」と定義されている。地球規模の環境問題のなかで、樹木や森林の果たす役割は大きく、また、歴史的な文化遺産としても、天然記念物の存在も大きい。これらの樹木を大切に保護するために、樹木医学に対する期待は大きい。このために、樹木の生理、生態など基礎知識の応用として、樹木医学を理解できるように学習する。また、将来、樹木医になるために、樹木医補の資格を得ることに繋がる。

授 業 内 容

樹木医制度や樹木保護に関する制度を理解し、農業や腐朽病害の基礎知識、生理と機能、生態、危険度診断、樹木保護の実際について理解を深める。また、植物の育成に及ぼす植栽地盤の土壌や気象などの環境条件の影響を理解し、植物の育成管理のあり方を学ぶ。”樹木の生きざまを観察し、その状態を理解するためには、生物学、植物基礎学、育成管理学、土壌学などのすべての知識が必要である。

準備学習等の内 容

要項に示した授業テーマについて、教科書を予め目を通して、質問したい疑問点を探しておくことが望ましい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	樹木医制度の概要	
2	樹木医学概論	
3	樹木保護に関する制度	
4	樹木概論	
5	農業の知識	
6	腐朽病害の基礎知識	
7	樹木の構造と機能	
8	樹木の生理	
9	樹木の生態	
10	危険度診断と外科的対策	
11	環境ストレス（気象害）	
12	移植法	
13	樹木保護の実際（1）	
14	樹木保護の実際（2）	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「最新・樹木医の手引き」 財団法人日本緑化センター	「緑地環境学」 小林・福山編著 文永堂	筆記試験60%、レポート20%および受講態度20%で評価する。

土壌学

Pedology (Soil Science)

《 2単位(講義) / 1年後期 / 専門・選択 》

1年

担当者

松本幸生

授業到達
目 標

土壌は、植物が生育する基盤であり、土壌の善し悪しによって植栽木や植物の生育状態に大きな影響を及ぼしている。
本講義では、土壌の性質を生物的、化学的、物理的な側面から基礎的知識の習得を目指し、また土壌の構造についてもその基本的な仕組みを理解することを目的とする。

授業内容

テキスト、パワーポイントによる座学及び土壌調査・診断を通して、その方法と分析の実際について学ぶ。

準備学習等の
内 容

テキストの下読み

授業計画等

授業テーマ

1	土壌のでき方と土壌生成因子
2	土壌総意の識別と区分
3	わが国の森林土壌の分類
4	土壌の生物的環境
5	土壌の化学的環境（1）
6	土壌の化学的環境（2）
7	土壌の物理環境（1）
8	土壌の物理環境（2）
9	土壌断面調査と土壌診断
10	土壌調査と診断の実際（1）
11	土壌調査と診断の実際（2）
12	緑化における土壌の問題
13	土壌改良の対象
14	土壌改良の方法と資材
15	まとめ

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

「最新・樹木医の手引き」
財団法人日本緑化センター

「土壌肥料用語辞典」第2版
農文協

試験・受講態度から総合的に判断する。
筆記試験50%、受講態度50%

造園土木材料論

Material of Landscape Architecture and Civil Engineering

《 2 単位(講義) / 1 年後期 / 専門・選択 》

1 年

担 当 者

松 本 伸三郎

授 業 到 達 標 目

造園植物以外の造園及び土木材料の種類や性質等を理解し、造園設計や施工する際に最適な材料を選択できる造園家になるための知識の習得を目標とする。

授 業 内 容

造園材料の内、造園植物以外を対象として様々な材料を種別ごとに特徴や性質を論じるとともに、写真等を提示しながら講義する。

準 備 学 習 等 の 内 容

日頃から身近な公園や庭園を多く訪ねて各種材料の使われ方に興味を持ち、自分自身の目で見えて記録(記憶)すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	土と土壌		
3	土壌改良材		
4	石 材		
5	石造添景物等の石材加工品		
6	木 材		
7	竹 材 等		
8	竹材加工品		
9	金属材		
10	非鉄金属材		
11	セメント・コンクリート		
12	コンクリート 2 次製品		
13	レンガ等窯業系材料		
14	その他材料		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
『造園施工管理技術編』 日本公園緑地協会造園施工管理 委員会			受講態度・筆記試験から総合的に判断する。 受講態度 (60%)、筆記試験 (40%)

草花と園芸

Flowers and garden plants

《 2単位(講義) / 1年後期 / 専門・選択 》

1年

担当者

宮本 淑子

授業到達
目

近年では、ハウステンボスや都心での大規模なガーデニングが大きな集客材料に使われるなど、多くの人を惹きつけている。それには多種多様な植物が使われている。そこで、最低限の草花について基礎知識を身につける術と、今後、自分のアイデアをまとめ、人に伝えていく力を得るきっかけとなることを目標とする。

授業内容

木本類以外の草花の特徴や使い方を知り、適地適植をモットーに自分の思うイメージを植物で表現する楽しさを知ってもらう。また、それを人と分かち合う力として花壇設計の基礎を学ぶ。

準備学習等の
内容

まず、今育てている植物はありますか？もし、ないのなら園芸店等で自分のお気に入りの植物を見つけて育ててみることをお勧めします。

授業計画等

授業テーマ		
1	ガイダンス ここで扱う草花（木本類を除く）について	
2	草花の種類とその特徴1	
3	草花の種類とその特徴2	
4	草花の使い方1（用途）	
5	草花の使い方2 色・季節	
6	イングリッシュガーデンの歴史とそこで使用する草花の種類とその特徴	
7	ハーブガーデンやキッチンガーデンなどで使用する草花の種類とその特徴	
8	身近にある園芸技術：例、ハカタユリの開花調節と観葉植物について	
9	設計事例をみてその手法を学ぶ1	
10	設計事例をみてその手法を学ぶ2	
11	花壇設計1 コンセプトづくり	
12	花壇設計2 製図	
13	花壇設計3 製図	
14	花壇設計4 発表	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
プリントを配布する。	A-Z 園芸植物百科事典・園芸植物大事典・HOME GARDEN・最新四季の草花図鑑520	製図40% 発表30% 期末の筆記試験30%

緑地管理実習 I

Landscape and Garden Maintenance I

《 1 単位(実習) / 1 年前期 / 専門・選択 》

1 年

担 当 者

菊川 裕幸・高宮さやか

授 業 到 達 標

本実習は花と緑の緑地環境の維持管理の視点から、緑地の管理技術・技能を実際の作業を通して学ぶ。
時間的な制限から大きく、植物の生理生態の基礎の実地と栽培管理、庭園を管理する為の基本的実技、花を中心とした彩りのある空間管理、植物以外の生物のための空間管理を学ぶことに重点を置きたい。また総合実習と連携して実習を行なう事で更に効果的に管理の知識と技術を身につける事を目標とする。

授 業 内 容

二丈キャンパス及び福浜キャンパス内の剪定、植栽等の作業を通して、季節ごとにおける植栽の管理と植生を学ぶ。また学外に於いて、植生調査、生産地見学、後援視察等の見学会や実習を通して、管理の現状を学ぶ。

準備学習等の
内 容

実際に土、緑、花に触れながら季節を感じながら学んで下さい。また、野帳、日報の記録をきちんと作成する事を必修事項とします。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	見学実習		
3	シュロ縄・ロープワーク		
4	花壇準備		
5	草花園芸		
6	間伐・林内整理		
7	挿し木・増殖工		
8	剪定		
9	病虫害防除		
10	技能検定		
11	挿し木の鉢上げ		
12	技能検定		
13	技能検定		
14	技能検定		
15	技能検定		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		「造園施工必携」 フラワーランドスケーピング	日報、野帳の記録、技術習得の度合い及び受講態度を総合的に評価する。 受講態度50%、提出物30%、技術20%

緑地管理実習Ⅱ

Landscape and Garden Maintenance Ⅱ

《 1 単位(実習) / 1 年後期 / 専門・選択》

1 年

担 当 者

菊川 裕幸・高宮さやか

授 業 到 達 標

本実習は花と緑の緑地環境の維持管理の視点から、緑地の管理技術・技能を実際の作業を通して学ぶ。
時間的な制限から大きく、植物の生理生態の基礎の実地と栽培管理、庭園を管理する為の基本的実技、花を中心とした彩りのある空間管理、植物以外の生物のための空間管理を学ぶことに重点を置きたい。また総合実習と連携して実習を行なう事で更に効果的に管理の知識と技術を身につける事を目標とする。

授 業 内 容

二丈キャンパス及び福浜キャンパス内の剪定、植栽等の作業を通して、季節ごとにおける植栽の管理と植生を学ぶ。また学外に於いて、植生調査、生産地見学、後援視察等の見学会や実習を通して、管理の現状を学ぶ。

準備学習等の
内 容

実際に土、緑、花に触れながら季節を感じながら学んで下さい。また、野帳、日報の記録をきちんと作成する事を必修事項とします。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	花壇整備		
2	見学実習		
3	見学実習		
4	草花園芸		
5	移植		
6	マツの剪定		
7	病虫害防除		
8	小空間の造型・施工		
9	小空間の造型・施工		
10	小空間の造型・施工		
11	小空間の造型・施工		
12	小空間の造型・施工		
13	小空間の造型・施工		
14	小空間の造型・施工		
15	小空間の造型・施工		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし		「造園施工必携」 フラワーランドスケーピング	日報、野帳の記録、技術習得の度合い及び受講態度を総合的に評価する。 受講態度50%、提出物30%、技術20%

フラワーデザイン基礎

Flower Design Basic

《 2単位(演習) / 1年前期 / 専門・選択 》

1年

担当者

野口 静香

授業到達
目 標

フラワーデザインの基礎知識

植物本来の美しさを認識しさまざまな角度から異資材との組み合わせなどで造形的表現方法を基礎学習します。

※花材代が別途必要です。

授業内容

楽しく花に触れながら花を好きになりましょう。個々の個性や感性をのばしていきましょう。

準備学習等の
内 容

初めて生花や資材を使ってデザインしたりアレンジをする事になると思います。

教科書となる「フラワーデザイン入門」を読みフラワーデザインというものをあらかじめ理解しておいて下さい。

授業計画等

授業テーマ

1	季節をイメージする スプリングアレンジ
2	子供の日 ギフトアレンジ
3	母の日 ギフトアレンジ
4	ブライダルについて ブライダルギフト
5	ブライダルブーケ
6	パターン違いのブーケ
7	ブライダルディスプレイ
8	ワイヤーリングからコサージュ制作
9	オーナメント制作
10	グリーンだけで作るブーケ
11	スパイラルの花束
12	パターン違いの花束
13	ドーム型アレンジ
14	サマーギフト
15	基礎のまとめ作品制作

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

「フラワーデザイン入門」
資格取得に役立つ

「新フラワーデザインの基礎」
社団法人
フラワーデザイナー協会編

完成作品評価 50%
受講態度 40%
作品について発表(プレゼン) 10%

学外研修

Field Trip

《 2単位(演習) / 1年前期 / 専門・選択 》

1年

担 当 者

西 川 真 水

授 業 到 達 標 目

伝統的な造園空間から現代のランドスケープまで空間の見方・作法の習得。
実際に多くの空間を見て、ランドスケープの設計にかかわる資料の作成。

授 業 内 容

造園、園芸、自然環境に関わる技術・知識を習得する上で、「本物」の上質な空間や「多様な環境を理論的に机上で学ぶだけでは、技術者、デザイナーとしては十分であるとは言えません。そこで、実際に歴史に名を残す名園、最新技術を活用し形成された都市環境・空間を自分の体験として学び、さらにそれを自らのキャリアにフィードバックすることを目的に宿泊を含む学外での研修を行う。

準備学習等の内 容

歴史認識を持つこと。特に庭園史、デザイン史などを勉強しておく

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	テーマの設定と研修計画作成		
3	研修計画の作成		
4	直前研修1：概要・総論		
5	直前研修2：各論		
6	直前研修3：各論		
7	研修		
8	研修		
9	研修		
10	研修		
11	研修		
12	研修		
13	調査資料の整理・パネル作成		
14	調査資料の整理・パネル作成		
15	報告書の作成		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリントを配布する		進士五十八／日本庭園 造景の技とところ／中公新書	レポート30%、テーマパネル40%、受講態度30%

企業実習

Practical Training of Business

《 2単位(実習) / 1年後期 / 専門・選択 》

1年

担 当 者

佐々木 一成

授 業 到 達 目 標

企業実習を通してキャリアデザインを明確にする。

授 業 内 容

①実務を通して造園・園芸・自然環境など緑地技術・技能・知識のレベルアップ②最新の業界の知識習得③企業の理念④企業の実践的な考え方と仕事の進め方⑤社会人としての心構えおよびビジネスマナー⑥就職活動の一環等を目的に造園・ガーデン・エクステリアの設計・施工・管理運営、園芸栽培・販売など、造園・園芸・自然環境に関連する分野での実習を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

受け入れ企業に迷惑を掛けることのないよう、充分留意すること。
しっかりとした目標設定を行い、積極的に研修すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	事前研修・安全教育	
2	企業との打ち合わせ	
3	企業・団体の現場での研修	
4	企業・団体の現場での研修	
5	企業・団体の現場での研修	
6	企業・団体の現場での研修	
7	企業・団体の現場での研修	
8	企業・団体の現場での研修	
9	企業・団体の現場での研修	
10	企業・団体の現場での研修	
11	企業・団体の現場での研修	
12	企業・団体の現場での研修	
13	企業・団体の現場での研修	
14	企業・団体の現場での研修	
15	まとめと反省	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
	「短大生の就活編」 株式会社ディスコ	評価は研修先の受け入れ担当者の評価(実習評価表)と実習報告書、実習日報をもとに担当教員が学則27条の規定に基づいて評価を行う。

環境ボランティア演習

Environmental and Landscape Volunteer Practice

《 1 単位(演習) / 1 年通年 / 専門・選択 》

1 年

担 当 者

佐々木一成・大石 道義

授 業 到 達 標

1. 日々学んでいることを社会に還元するとともに、学び甲斐や更なる向学心・社会職責観を涵養する。
2. 二丈実習場の豊かなみどり資源を、自身の学びの深化につながるボランティア活動を通して、地域社会に活かすことに努め、併せて実習場の活性化につなぐ。
3. コミュニケーション能力や社会性・積極的行動力を涵養する。

授 業 内 容

・二丈キャンパス園芸福祉ツアー、商店街活性化をも企図した唐人町アーケードでの「エコ&みどりの体験」教室開催、鴻巣山里山管理ボランティア、海岸における植林・間伐 etc.
 ※基本的に時間割授業ではなく、かつ学外授業が多い。
 尚、ポイント制に基づく選択受講です。

準 備 学 習 等 の 内 容

1. 自分の参加する項目活動について、予習・復習を怠らないこと。
2. 新聞等を注意深く閲覧し、「環境・福祉・教育・文化・保健」等の社会的課題に常々、視点を向けておくこと。
 (市民より質問を受けた場合、応答解説ができるよう準備しておくこと。)

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ			
週	前 期	週	後 期
1	総合ガイダンス	1	二丈キャンパス園芸福祉ツアーⅡ (検討・企画・準備)
2	ボランティア概論	2	〃 (実施・まとめ)
3	環境ボランティア概論	3	海岸林間伐 (検討・企画・準備)
4	二丈キャンパス園芸福祉ツアーⅠ (検討・企画・準備)	4	〃 (実施・まとめ)
5	〃 (実施・まとめ)	5	公園イベント：グリッピーキャンペーン参画(Ⅰ)(Ⅱ) (検討・企画・準備)
6	小学校クラス環境学習教材としてのムクロジ果実の希望学校等への配送 (検討・企画・準備)	6	〃 (実施・まとめ)
7	〃 (実施・まとめ)	7	福岡市立こども病院クリスマスリース飾り付け・片付け (検討・企画・準備)
8	特別造園緑化ボランティア演習 (検討・企画・準備)	8	〃 (実施・まとめ)
9	〃 (実施・まとめ)	9	エコ&みどりの体験教室 (検討・企画・実施)
10	簡易竹編み工芸体験材の希望学校等への配送 (検討・企画)	10	生産的緑化研修(高速道路法面植栽櫓の木のチャリティー収穫) (検討・企画・実施)
11	〃 準備	11	唐人町商店街「クリスマスリース創り」教室 (検討・企画・実施)
12	〃 実施・まとめ	12	正月伝統行事「どんと焼き」参画(竹笹類調達、独楽・葉っぱ書き初め他)
13	国体道路花壇デザイン植栽 (検討・企画)	13	鴻巣山里山管理 (Ⅰ)
14	〃 準備	14	鴻巣山里山管理 (Ⅱ)
15	〃 実施・まとめ	15	総括
教科書(必須)		参考書・参考文献	
なし		「ボランティア時代のみどりのまちづくり」 進士五十八 東京農業大学出版会	
		評価基準	
		取り組み態度(50%)・各回レポート、及び総括レポート (50%)	

ビオトープ演習

Exercises in Biotope

1年

《 1単位(演習) / 1年前期 / 資格・選択 》

担当者

岩熊志保

授業到達
目 標

広域的な地域計画のプランナーなどを担当する「2級ビオトープ計画管理士」試験の合格を目指して開講すると同時に、ビオトープに関連した横断的な知識を身につけることを目標とする。

授業内容

ビオトープ (BIOTOP) とは、地域の野生の生きものたち (BIO) が生息する空間 (TOP) を意味します。残されたビオトープを守り失われたビオトープを取り戻す、そして、そこで育まれる健全な生物の多様性を守り回復させる必要があります。それを行うのが「ビオトープ管理士」です。

準備学習等の
内 容

日頃から自然環境のことに興味を持ち、いきものと人間との関係について考えておくこと。講義の前までに教科書を読み予習をする。

授業計画等

授業テーマ

1	ビオトープとは
2	生態系について
3	ビオトープの定義と現状
4	ビオトープ保全について
5	外来生物について
6	環境関連法規
7	種の保存・保全・防除に関する法律
8	中間試験
9	自然保護・管理に関する法律
10	環境関連条約
11	ビオトープ計画について
12	野生生物調査について
13	地域計画などにおける生態系保全
14	ビオトープ管理士計画部門対策
15	まとめ

教科書(必須)

ビオトープ管理士資格試験公式
テキスト
配布プリント

参考書・参考文献

評価基準

演習の課題と、中間試験で評価します。

ゼミナール

Seminar

《 4単位(演習) / 2年通年 / 専門・必修 》

担 当 者

大 石 道 義

2年

授 業 到 達 目 標

1. 造園家・社会人として人生を歩んでいく地歩を築く。
2. 造園学的なもののみかた・考え方・価値観・発想、造園家にふさわしい豊かな感性・社会的職責観・創造行動力を身に付ける。グループワークを行ない協働することを修める。
3. 実践的に体験することを重んじ、造園に対して、一層の興味と探究心、企画創造性を培う。

授 業 内 容

1. 造園家の基礎としての日本庭園
2. 実習場樹木の修得及び樹木データベース作り（於 二丈キャンパス・福浜キャンパス）
3. 二丈キャンパスの管理関係（OB作庭園・樹木ラベルの管理）
4. 社会提案型造園創作と管理（壁面ビオトープ、廃材活用庭園、サイホン噴水 etc.）
5. 文化財の保存活用／産業遺産の保存と活用・エコミュージアム（視察や保存ボランティア）
6. 環境教育・環境福祉の理念とプログラム（含. 学童手づくり管理のクレパスがき樹木ラベル）
7. 唐人町・福浜地区における環境福祉活動（米のとき汁活用お楽しみ福祉鉢の配布 etc.）
8. 学外での社会提案的な造園・ガーデニング（まちなか季節簡易ガーデニング etc.）

準 備 学 習 等 の 内 容

1. 一週間を単位として、キャリアデザイン及び授業テーマについて予習・復習的に知り組む。
2. 人と自然の共生を常に考える。
3. ゼミのテーマである「人+木=休」について常に考え、かつ行動する事を習慣化する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期
1	ガイダンス（ゼミの理念）・キャンパス巡検・花見	1	後期ガイダンス・キャンパス巡検 OB作庭園の検証と管理
2	活動の構想・計画 OB作庭園等の検証と管理	2	「秋の感謝祭」へのゼミとしての参画準備～ OB作庭園の検証と管理
3	日本の伝統的季節行事・唱歌・節季についての研修 OB作庭園の検証と管理	3	「米の研ぎ汁」活用お楽しみ福祉鉢の配布会
4	「二丈キャンパスツアー」「市民エコツアー」予習・準備～ OB作庭園の検証と管理	4	新規造園(まちなかアーケード簡易季節ガーデン, 他)
5	新規造園の構想計画・設計開始～ (唐人町季節ガーデン・UR福浜グリーンスポット・弁当箱ガーデン・図書室ガーデン他)	5	〃
6	秋の感謝祭・みどりのボランティア・しおり制作等の 構想・準備～	6	〃
7	八女市坂本繁二郎アトリエ跡地文化化のための調査計 画	7	〃
8	八女市滝の宮不動尊内カゴノキ群樹木調査	8	〃
9	アンケート調査 樹木ラベリング研修	9	生産的緑化研修（高速道路路面植栽の樫実収穫実習）
10	香月徳男氏蔵書類の体系的整理	10	産業遺産の保存活用、エコミュージアム
11	「エコ&みどりの体験教室」学習 樹木ラベリング整備	11	子ども病院へのクリスマスリース 飾り付け支援、他
12	新規造園(まちなかアーケード簡易季節ガーデン, 他)	12	環境ボランティア活動(リース作り等の指導出張教室)
13	〃	13	〃
14	〃	14	まとめ
15	市民エコツアー	15	発表報告会

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

「ボランティア時代のみどりの
まちづくり」
進士五十八、東京農業大学出版会
「日本の庭園」
進士五十八、中央公論出版社

「農の時代、スローなまちづくり」
進士五十八、学芸出版社
「グリーンセイバー—植物と自然の基
礎を学ぶ」岩槻那男監修、研成社
「福岡の近代化遺産」
九州産業考古学会編、弦書房

受講態度（40%）、ヤル気・リーダーシップ性（10%）、
ゼミ日誌・2年次ポートフォリオ（50%）

ゼミナール

Seminar

《 4 単位(演習) / 2 年通年 / 専門・必修 》

2 年 担 当 者

西 川 真 水

授 業 到 達 標

- ・空間制作：実際の空間制作をとおしてデザインプロセスと技術を身につける
- ・プレゼンテーション：レイアウト技術などをとおして、提案力を身につける
- ・対話：様々な人との出会いと、対話をとおしてデザイナー・社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける

授 業 内 容

1. ランドスケープデザイン／社会・人間との関係の在り方、2. モノづくりからコトづくりへ／コトとしてのデザインの在り方、3. 社会・環境貢献できるデザインと技術を持ったランドスケープアーキテクトへの成長の大きく3点をこのゼミでのミッションとしたい。そして理論としてのランドスケープデザインのみならず、現場・敷地・素材からデザインにアプローチすることに主眼を置き、空間制作、プレゼンテーション、対話の3つの方法でミッションへのアプローチを行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

生活すべてが、造園やランドスケープのデザイン・空間づくりにつながっていることを考え、ボランティア、アートや建築の見学、読書など様々な体験に積極的に取り組むこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期
1	オリエンテーション	1	生産地見学
2	企業見学1：デザインの現場を訪ねる	2	素材のリサーチ
3	企業見学2：	3	素材のリサーチ
4	リサーチの方法と分析	4	デザイン4
5	リサーチの方法と分析	5	デザイン5
6	ポートフォリオの制作1	6	デザイン6
7	デザイン1	7	デザイン7
8	空間施工1	8	空間施工5
9	空間施工2	9	空間施工6
10	デザイン2	10	プレゼンテーション
11	デザイン3	11	プレゼンテーション
12	植物の栽培と管理	12	プレゼンテーション
13	植物の栽培と管理	13	報告書とプレゼンテーション資料制作
14	空間施工3	14	報告書とプレゼンテーション資料制作
15	空間施工4	15	ポートフォリオの制作2
教科書(必須)		参考書・参考文献	
プリントを配布する		ランドスケープデザインの視座 ／宮城俊作／学芸出版社	ポートフォリオおよび作品成果品60%、受講態度30%、 発表10%
		評価基準	

ゼミナール

Seminar

《 4 単位(演習) / 2 年通年 / 専門・必修 》

担 当 者

宮 島 淳 二

2 年

授 業 到 達 目 標

森林及び樹木に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、その現状を理解する。また、森林や樹木が正常に成育している状態から様々な外的要因によりダメージを受けていることを理解する為、森林昆虫や樹木病害についての基礎的な知識を身に付け、その診断と治療方法を考える力を身に付ける。

授 業 内 容

- ①樹木の成育や森林昆虫、樹木病害についての基礎的な知識を身に付けるための、造林学、森林昆虫学、樹病学に関する演習
- ②森林調査の見学及び実習
- ③樹木病害の診断

準 備 学 習 等 の 内 容

- ①森林・林業に関心を持ち、関連する書物を読む。
- ②「最新樹木医の手引き」を熟読し、内容を身に付けるよう努力する。
- ③レポート等が課された場合、論文作成のための訓練として、誤字脱字はもとより、語句の使い方や文脈などにも注意を払い、正確な文章を書くよう心がける。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期
1	造林学演習①	1	現地調査
2	森林昆虫学演習①	2	現地調査
3	樹病学演習①	3	現地調査
4	テーマ別検討	4	現地調査
5	テーマ別検討	5	調査研究のまとめ
6	テーマ別検討	6	調査研究のまとめ
7	資料収集及び現地調査	7	調査研究のまとめ
8	資料収集及び現地調査	8	論文の整理
9	資料収集及び現地調査	9	論文の整理
10	資料分析	10	論文の整理
11	資料分析	11	論文の整理
12	資料分析	12	論文の整理
13	資料分析	13	発表会準備
14	資料分析	14	発表会準備
15	中間発表会	15	発表

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

「最新樹木医の手引き」財団法人日本緑化センター

「改訂樹病学」千葉修著、地球社、「新応用昆虫学」齊藤、松本、平嶋、久野、中島共著、朝倉書店、「九州のスギとヒノキ」宮島寛著、九州大学出版

受講態度50%、課題50%、

ゼミナール

Seminar

《 4 単位(演習) / 2 年通年 / 専門・必修 》

2 年 担 当 者

高 宮 さやか

授 業 到 達 標 目

- ①日本庭園の文化的背景と伝統的作庭法を学び、庭園研究の軸とする。
- ②古今東西の庭園を様々な角度から考察し、その源泉である文化や自然観を知り、各人の庭園観を確立する。
「庭園とは…○○だ」

授 業 内 容

- ①「作庭記」「露地聴書」の講読とレポート発表・討論
- ②研究課題に沿って調査・分析や設計・模型づくりを行う
- ③庭園、公園内の樹木点検と保全方法の提案（樹木医補希望者向けプログラム）

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・「造園史」（必修科目）の復習
- ・「庭園設計論」（選択科目）の履修

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期
1	「作庭記」講読、解説	1	資料収集・調査
2	「作庭記」の背景（発表・討論）	2	資料収集・調査
3	「作庭記」の内容（発表・討論）	3	資料収集・調査
4	「露地聴書」講読、解説	4	調査・分析、制作
5	「露地聴書」の背景（発表・討論）	5	調査・分析、制作
6	「露地聴書」の内容（発表・討論）	6	調査・分析、制作
7	正午の茶事：露地を体験する	7	調査・分析、制作
8	庭園見学	8	報告書作成、制作
9	研究課題の検討	9	報告書作成、制作
10	研究課題に沿って研究計画を立てる	10	報告書作成、制作
11	研究計画、段取り	11	報告書作成、制作
12	資料収集・調査	12	報告書作成、制作
13	資料収集・調査	13	発表準備
14	資料収集・調査	14	発表準備
15	中間まとめ	15	発表
教科書(必須)		参考書・参考文献	
小笠雅章「図解 庭師が読みとく作庭記」		上原敬二編 「解説 南坊録抜粋・露地聴書」 (一財)日本緑化センター 「最新・樹木医の手引き」	
		演習への取組態度 40点 成果品の仕上がりに関する発表 40点 発表 20点	
		評価基準	

ゼミナール

Seminar

《 4 単位(演習) / 2 年通年 / 専門・必修 》

担 当 者

菊川 裕幸・大田香代子

2 年

授 業 到 達 標

花卉園芸全般に及ぶ植物の育成と、それを取り入れたデザインの計画、設計、施工及び管理を学び、実践する。また、園芸を通して人と人とを繋ぐ空間デザインやプログラムの立案にリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指す。
環境への配慮と文化の発展とのバランスを取りながら、様々な提案が出来る人材の育成を目的とする。

授 業 内 容

- 草花、花卉全般にわたる知識と管理技術の習得
- 学外等におけるコンテスト出品、資格取得、コミュニティづくりの知識の習得
- 環境に負荷を与えない花卉園芸技術と植栽技術の習得と普及

準 備 学 習 等 の 内 容

草花、園芸及びデザインに関する書物、雑誌等を常にチェックすること。
年間計画をたて、必要な知識や技術の習得に積極的に動くこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ			
週	前 期	週	後 期
1	オリエンテーションと年間計画	1	コンテスト出品準備
2	コンテスト作品制作	2	学外実習
3	学外実習	3	学外実習の企画
4	植物の育成と管理 1	4	植物の育成と管理 8
5	植物の育成と管理 2	5	感謝祭発表準備
6	花壇制作とコミュニケーション	6	感謝祭発表準備
7	研究発表準備 (ポートフォリオ作成)	7	植物の育成と管理 9
8	植物の育成と管理 3	8	花壇作成とコミュニケーション
9	植物の育成と管理 4	9	植物の育成と管理10
10	植物の育成と管理 5	10	学外実習
11	学外実習 ナーセリー見学	11	植物の育成と管理11
12	植物の育成と管理 6	12	植物の育成と管理12
13	秋のコンテスト立案	13	研究発表準備 (ポートフォリオまとめ)
14	管理実習	14	卒業発表まとめ
15	植物の育成と管理 7	15	卒業発表まとめ
教科書(必須)		参考書・参考文献	
なし		ガーデニングデザイン入門 ハンギングマスター認定講習 テキスト	
		評価基準	
		作品制作30%、課題30%、受講態度40%	

ガーデニング実習

Practical Gardening

《 2単位(実習) / 2年通年 / 専門・必修 》

2年 担 当 者

大石道義・西川真水・宮島 淳二・高宮さやか・菊川 裕幸・大田香代子

授 業 到 達 標

- ・造園・ランドスケープ・緑地環境に関わる空間の構想・計画・設計・施工管理・維持管理等の一連の作業の流れを学ぶ。
- ・実地での技術を各論として学んだ総合実習（1年次通年科目）の成果や専門科目で得た知識を基礎に総合化し、集約的に再習得する。

授 業 内 容

1年次それぞれのコースの特性に合わせた実習スキルの基本を学び、各論ともいえる様々な講義科目などを通して必要な知識習得を行った。また設計演習では空間作りのプロセスも学んだ。本実習では学んできたことを踏まえて、コースごとに与えられた敷地空間の設計から施工までを行う。ゼミナールごとに別れそれぞれにテーマ・設計条件を設定し、平面図・詳細図等その根拠なる図書を作成し、このデザインをもとに二丈キャンパス等において実際の空間制作を行うことで、構想・計画・設計・施工までのプロセスを学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

各コース内でのチームワークを整え、各々の自覚ある責任感を持って、協働作業が行なえる様、コミュニケーションを図る事。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ			
週	前 期	週	後 期
1	ガイダンス	16	OB制作庭園の維持管理
2	OB制作モデル庭園についての学習	17	除草・整地
3	OB制作モデル庭園の維持管理	18	測量・遣形
4	現地調査及び測量	19	石組工
5	〃	20	〃
6	〃	21	〃
7	構想	22	工作物
8	〃	23	〃
9	計画・設計	24	〃
10	〃	25	高木植栽工
11	〃	26	〃
12	積算・工程計画	27	低木・地被植栽工
13	〃	28	工事記録収集
14	設計書とりまとめ及び提出	29	〃
15	OB制作庭園の維持管理	30	工事記録とりまとめ
教科書(必須)		参考書・参考文献	
なし		造園施工管理技術編 造園施工必携 建設物価	
評価基準			
受講態度及び技術習得の度合いを総合評価。受講態度50%、設計計画20%、施工技术30%			

植物育成管理学

Management of Raising Plants

《 2単位(講義) / 2年後期 / 専門・必修 》

担 当 者

宮島 淳二・高宮さやか

2年

授 業 到 達 目 標

植物は緑地環境の主役であり、健全に育成・管理しなければならない。このため植物の形態、生理、生態などの諸特性を理解し、その環境条件を考慮して適切に対応する必要がある。これらの技術を習得する上で不可欠な基礎知識を学習する。

授 業 内 容

緑地の意義およびそれを構成する植物の概要を把握するとともに、植物の生理、生態について理解を深める。また、植物の生育に及ぼす種々の環境条件を理解し、植物の育成管理の在り方を学ぶ。

準備学習等の内 容

授業のテーマについて、質問したいことを探しておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	緑地環境と人間	
2	植物の生育と緑地環境	
3	樹木の特徴	
4	樹木の構造と機能	
5	植物の生理 (水分)	
6	植物の生理 (土壌)	
7	植物の生理 (気象)	
8	植物の生理 (光)	
9	植物の生理 (光合成)	
10	植物の生理 (微生物)	
11	植物の生理 (微生物)	
12	植物の生理 (大気汚染)	
13	育成管理 1	
14	育成管理 2	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「緑地環境学」小林・福山編著 文永堂		筆記試験60%、レポート20%および受講態度20%で評価する。

環境設計演習Ⅱ

Landscape Design Practice II

《 2単位(演習) / 2年前期 / 専門・必修 》

2年 担 当 者

久保田 家 且

授 業 到 達 標 目

日本人の自然観や美意識を表現する一つの手法であるとともに、伝統的な日本文化の象徴の一つと言える日本庭園の設計ができるようになることを目標とする。

授 業 内 容

これまで学んできた緑地計画や庭園設計論等を具現化ものであり、日本庭園を設計する際の課題整理から設計図・設計書の作成及び作品のプレゼンまでを一貫して教示する。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ①日本庭園関連図書を多く読むこと。
- ②良い作品（庭園）とその設計図をより多く見ること。
- ③設計図の作成には多くの時間を有し、授業時間内には完了しないことが多いため、講義のない時間や自宅でも設計をする必要がある。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	事例の施設構造図等検討		
3	課題の設定と条件整理		
4	庭園のコンセプト設定		
5	ゾーニングと動線図作成		
6	庭園構想図作成		
7	庭園平面計画図作成Ⅰ		
8	庭園平面計画図作成Ⅱ		
9	庭園平面計画図作成Ⅲ		
10	庭園平面計画図作成Ⅳ		
11	庭園平面計画図作成Ⅴ		
12	各種計画図作成（施設計画高図、給排水計画図等）		
13	施設詳細図及び立面図等作成		
14	企画提案書作成		
15	課題作品プレゼン・講評		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「なし」 プリント配布		「造園施工管理技術編」日本公園緑地協会、「造園実務ポケットブック」木村了(株) オーム社	受講態度 20点、 課題作品 80点

環境設計演習Ⅲ

Landscape Design Practice Ⅲ

《 2単位(演習) / 2年後期 / 専門・選択 》

担 当 者

勝 野 靖 弘

2年

授 業 到 達 目 標

環境（空間）デザインの手法と、自分のデザインイメージを表現する手法を学んでもらいます。自分のセンスを信じて新しい空間デザインを提案する。「できそうなデザイン」「正しい整備」にこだわらず、自由な発想で良いと思う空間を提案し「自分のイメージを人に伝える」技術を磨いてもらいます。

授 業 内 容

近隣の公園などの現地調査・分析、およびまとめ。
改修（改善）の方向性の検討。
具体的プランの作成（平面図、断面図、イメージ写真・スケッチなど）。
分析からデザイン提案までの流れをプレゼンボードにまとめる。

準 備 学 習 等 の 内 容

新聞やニュース、専門誌などを読み現代の社会問題・課題を勉強しておくこと。都市計画・建築・土木などの他分野も含め様々な都市空間事例を意識的に見学すること。
手描きの図面を作成してもらいます（練習もします）。トレーシングペーパー（A3）、色鉛筆、製図ペン、定規などを持ってきてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス・課題の設定	
2	現地調査	
3	テーマの決定	
4	現地・敷地分析図の作成	
5	課題地の原図作成	
6	コンセプトワーク・ラフスケッチなどエスキスの作成	
7	コンセプトワーク・ラフスケッチなどエスキスの作成	
8	平面図作成	
9	平面図作成	
10	バース・ダイアグラムなど作成	
11	バース・ダイアグラムなど作成	
12	プレゼンテーション・資料作成の作成	
13	プレゼンテーション・資料作成の作成	
14	プレゼンテーション・資料作成の作成	
15	プレゼンテーション	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
プリントを配布	ランドスケープデザイン（隔月刊）株式会社マルモ出版、庭NIWA（季刊）株式会社建築資料研究社、エクステリア&ガーデン（季刊）株式会社ブティック社	課題成果品70%、受講態度30%（毎回の課題提出発表等）

コンピュータ実習Ⅱ

Practice in Computer Ⅱ

《 1 単位(実習) / 2 年前期 / 専門・選択 》

2 年 担 当 者

勝 野 靖 弘

授 業 到 達 標

緑地計画は目的に応じて必要な野外の測量や調査結果を正しく表現する必要があります。また、建築・土木設計との協働などで他社とのデータの交換、合成などが必須となります。CAD で正確に図面を画き、データを扱う技術を習得しましょう。
また、CAD のすべての機能を習得する必要はありませんが、「どんなことができるか」を把握し、必要に応じて機能を参考書やヘルプで探せるようになりましょう。

授 業 内 容

福浜キャンパスや周辺の公園の木や花壇、ファニチャーなどを調査してCAD 図面化してもらいます。
毎回、キーとなる操作方法やコマンドをいくつか紹介しますが、できるだけ自分で調べたり工夫したりしながら図面作成して、操作方法を身に付けてください。
特殊な操作方法や便利な機能も紹介しますが、見やすい、わかりやすい図面を描けるようになることを優先します。

準備学習等の内 容

「図面」はどんな風に描かれているのか、先輩たちの作品や、本に載っている庭園の図面などをよく見ておいてください。
授業の中でモノの大きさや形などを計測しに行きますが、事前に身近なベンチや木や石の大きさ（幅何センチ、高さ何メートル）などを計測してみてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	緑地計画の為の環境設定
2	緑地計画平面図入力（敷地測量図、縮尺）
3	〃 （建物配置図）
4	〃 （線描や図の表現）
5	緑地計画図作成（ガーデンファニチャーなど）
6	〃 （植栽計画図・ワークシートとの連動）
7	〃 （造作・植栽指示図、註釈など）
8	緑地計画図の完成（タイトル・凡例など）
9	3D 立体化した緑地計画図作成（階段、段差のある庭、壁の立体化）
10	〃 （ガーデンファニチャーの立体化）
11	〃 （植栽の立体化）
12	緑地計画立体図作成（施工詳細図など）
13	緑地計画図パース作成（ビューポートを使ったプレゼンテーション準備）
14	〃 （家屋からの眺めをシミュレーション）
15	まとめ 緑地計画プレゼンテーション完成（アニメーション見学）

教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	「AutoCAD 2018 / AutoCAD LT2018公式トレーニングガイド」オートデスク株式会社：日経 BP 社	毎回の課題提出（作図方法の指導あり） 最終課題提出（ 〃 ） 図面作成課題提出85%、受講態度（提出物含む）15%

測量実習Ⅱ

Survey Practicing Ⅱ

《 2単位(実習) / 2年通年 / 専門・選択 》

担 当 者

田 上 博

2年

授 業 到 達 目 的

距離測量・水準測量・角測量など、それぞれの測量を行うだけでなく、それらの結果を用いて座標計算を行うなど応用的な測量ができるようになる。また、表計算ソフトを活用して測量計算など、実務に活用できる技術をみにつける。

授 業 内 容

「測量実習Ⅰ」を基礎としてより実践的な測量に関する技術を習得する実習です。造園の設計・施工に必要な平面測量・路線測量の理論と実習を行ないます。同時にGPSやGISを活用した新しい測量に関する実習も行います。コンピュータによる実習ではエクセル・ArcGIS・GoogleMapなどを使います。
関数電卓と製図道具が必要です。

準備学習等の内 容

測量学、測量実習Ⅰで学んだことをしっかり身につけておいてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

週	前 期	週	後 期		
1	オリエンテーション 計算基礎	1	トータルステーションによる細部測量の計算法		
2	測量計算について	2	コンピュータによる測量計算		
3	トータルステーションの取り扱い	3	コンピュータによる測量計算		
4	角度と距離の測定	4	コンピュータによる測量計算		
5	角度と距離の測定	5	コンピュータによる測量計算		
6	トラバース測量	6	コンピュータによる測量計算		
7	トラバース測量	7	GPS 測量		
8	二丈キャンパスのトラバース測量	8	GPS 測量		
9	二丈キャンパスのトラバース測量	9	GIS の理論		
10	二丈キャンパスのトラバース測量	10	GIS の理論		
11	二丈キャンパスのトラバース測量まとめ	11	GPS を利用した GIS		
12	二丈キャンパスのトラバース測量まとめ	12	GPS を利用した GIS		
13	二丈キャンパスの細部測量	13	GIS の構築		
14	二丈キャンパスの細部測量	14	GIS の構築		
15	まとめ	15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献		評価基準	
「良くわかる測量実習」 細川吉晴他著(コロナ社) プリント配布		「図解 測量学要論」 (日本測量協会)		実習態度30%、日報および課題の評価30%、試験40%とする。	

造園施工管理論

Theory of Management for Landscape Construction

《 2 単位(講義) / 2 年前期 / 専門・選択 》

2 年

担 当 者

高 宮 さやか

授 業 到 達 目 標

造園・ランドスケープ事業の工事・管理における施工管理に関する知識とその流れの理解を大きな到達目標とする。そのために工程管理、品質管理、原価管理および安全管理までより実践的な流れとして理解することが重要である。
また、2級造園施工管理技士の学科試験の傾向・内容も理解することも目標としたい。

授 業 内 容

造園・ランドスケープの工事・管理における施工管理について概説し、空間・プロジェクトに合わせた施工管理の在り方を、実務を通して考え、実際に施工計画・原価計算行う。また実務レベルでの施工管理の重要点を聞くための、実際の造園・ランドスケープ工事の現場の見学を行う。秋に行われる施工管理技術検定の過去問題を事例に、試験の傾向と分析も行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

1 年次に行った園路制作や花壇制作の流れを再度理解しておくこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	概説 (施工管理とは?)
2	施工の流れと施工管理の位置づけ
3	4 大管理機能
4	4 大管理機能と相互関係
5	現場代理人①
6	現場代理人②
7	施工計画
8	工程管理
9	経済的工程管理
10	各種工程表
11	ネットワーク手法
12	日程計算
13	日程管理
14	日程短縮
15	品質管理、安全管理、及びまとめ

教科書(必須)

造園施工管理技術編／公園緑地協会編
プリントを配布

参考書・参考文献

なし

評価基準

授業内で作成する施工計画・原価計算 60点
レポート 40点

都市計画

Urban Planning and Design

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 専門・選択 》

2 年

担 当 者

久保田 家 且

授 業 到 達 標 目

都市計画全般の基礎知識と都市計画上の緑地空間の位置づけ及び確保手法について、習得することを目標とする。

授 業 内 容

都市計画法によれば、都市計画とは、「都市の健全な発達と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に関する計画」とあるが、本講義では、都市の発達の歴史及び都市計画の制度等を体系的に論ずるとともに、特に、緑地空間について詳細に講義する。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ①都市計画区域内の緑地を見学し、都市計画法上の位置づけと確保手法について調査すること。
- ②都市計画関連図書を多く読むこと。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	ガイダンス	
2	都市の歴史と都市計画	
3	都市計画の定義と制度	
4	都市計画の内容と決定等	
5	都市計画区域と区域区分	
6	地域地区による土地利用と都市施設	
7	都市計画と建築	
8	市街地開発事業と都市の再生	
9	都市のオープンスペース I	
10	都市のオープンスペース II	
11	現地見学	
12	都市景観と歴史的風致のまちづくり	
13	都市の安全安心	
14	都市計画の課題と近未来の都市計画	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
プリント配布	「欧米公園発達史」佐藤 昌 (株)都市計画研究所 「都市計画」樗木 武 森北出版(株)	受講態度 10点 レポート 30点 試 験 60点

住環境論

Theory of Living Environment

《 2単位(講義) / 2年後期 / 専門・選択 》

2年 担 当 者

西 川 真 水

授 業 到 達 目 標

住環境に関する様々な知識習得、特にエクステリアのプランニングとデザインに関する知識とそのデザインの方法についての知識の習得を目標とする。

授 業 内 容

人間の生活する環境は地球上の広範囲に広がる。私たち日本で生活する者にとっては温帯モンスーンの湿潤な気候を考慮しなければならないし、近年の温暖化の影響を考えた住環境のあり方を意識しなければならない。私たち造園・ランドスケープに関わるデザイナー・技術者は様々な影響下で如何に住環境のデザイン・整備に関わっていくのか。特にエクステリアの視点から講義を進める。

準 備 学 習 等 の 内 容

皆さんの普段の生活から、住環境のあり方を考えます。；あなたの住む町、地元の住環境を整理し、どのような環境要素があるかを調べてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス／人はなぜ集まって住むのか		
2	古代都市の生活空間		
3	市民としての生活空間		
4	人口集中する都市の生活空間		
5	住環境の時代へ		
6	ディベート1		
7	住環境の尺度1（人口と環境のスケール）		
8	住環境の尺度2（まちづくりのテーマ）		
9	住環境の尺度3（新しいルール作り）		
10	アメニティとアセスメント1（環境要素）		
11	アメニティとアセスメント2（思想と実験）		
12	アメニティとアセスメント3（コミュニティの各相）		
13	アメニティとアセスメント4（ユニバーサルデザイン）		
14	アメニティとアセスメント5（サステイナブルとエコロジー）		
15	ディベート2 まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
プリントを配布		「エクステリアプランナーハンドブック」建築資料研究社 「向こう三軒両隣り」田中敏博／インデックス・コミュニケーションズ	試験70%、ノート・レポート20%、授業態度10%

環境保全論

Environmental Conservation

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 専門・選択 》

担 当 者

宮 島 淳 二

2 年

授 業 到 達 標

18世紀から19世紀に始まった産業革命後から、人類は化石燃料(石炭、石油など)のエネルギーを利用することによって、産業が急速に発達し、人々の暮らしは驚くほどに豊かになってきた。しかし、一方で自然界に対する人間活動の影響は、無視できないほど大きくなり、大気汚染、二酸化炭素の増大、オゾン層の破壊、森林伐採、砂漠化、海洋汚染など地球環境を悪化させている。これらの地球環境問題、及び身近な生活環境問題について学ぶとともに、森林や緑地環境並びに生活や産業のありようと密接なつながりがあることを理解し、ハード・ソフト両面での環境保全の方策を学習する。

授 業 内 容

環境問題は前述したように、人間、つまり自分たちの暮らし様や心がけ、考え方に起因するところがあり、その解決には環境倫理や環境教育が出発点的に重要であることを認識する。又、自分たち造園家の職能・社会的使命が、とりわけ環境補償や環境再生、ビオトープの創造管理、景観管理・修景など技術的解決面で貢献すべきものであることを再認識して基礎的に学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

授業テーマについて、関連情報をインターネットや図書館の資料を調べて議論のよりどころとする。指定の授業では、前もって班と担当分野を決め、内容骨格を確認し合った上で資料を作成し、発表する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス		
2	地球温暖化とその影響(1)		
3	地球温暖化とその影響(2)		
4	地球と人間の歴史		
5	地球環境問題		
6	環境問題に直面する国々		
7	地球環境問題への取り組み		
8	身近で起こっている環境問題		
9	エコロジカルライフ		
10	環境倫理・環境教育		
11	農の伝統に学ぶゼロエミッションと持続可能社会		
12	環境補償・環境再生・ビオトープの創造管理		
13	景観美の創造と景観管理・里山の管理		
14	文化財の保存活用とエコミュージアム		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「地球環境がわかる」 西岡秀三、宮崎忠國、村野健太郎 技術評論社		・「グリーンセイバー—植物と自然の基礎を学ぶ」岩槻那男監修、研成社 ・「自然保護 その生態学と社会学」 吉田正人、地人書館 ・「eco 検定公式テキスト」 東京商工会議所編著 ・「改訂新版地球環境がわかる」 西岡秀三共著、技術評論社	・受講態度(10%) ・学科試験(50%) ・提出課題(40%)

景観論

Theory of Landscape

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 専門・選択 》

2 年 担 当 者

武 林 晃 司

授 業 到 達 標

トータルランドスケープ(景観)の中で、極めて重要な役割を担う緑地を含む環境設計は、計画から設計・施工に至るまで空間対象が多岐にわたり、その対象は、個人の住宅領域から都市的スケールまで及ぶ。一方、都市生活者は、空間のスケール、個人や公共の領域等の区別はなく、目に見える範囲をすべて景観として捉え、評価を行う。本講義ではこれらの景観の概念や構成要素、評価の視点等を学ぶとともに、環境設計における景観の配慮のあり方、緑地の重要性等を理解してもらう。

授 業 内 容

景観の概念や構成要素、評価の視点等、景観とは何かということを学んでもらう。次に、実際の景観計画・デザインの手法をデザインの実例や景観シミュレーション等をもとに示すとともに、3 回程度のワークショップにより景観計画・デザインを体験してもらう。

準 備 学 習 等 の 内 容

実際に取り組まれている景観のあり方を、海外の事例、日本の事例、福岡市の事例を取り上げながら、学習体験する。授業の中で準備したスライドや景観シミュレーションなどの資料が基本となり、ビジュアルで景観形成の仕組みを体験してもらう。また、ワークショップ等により、景観について考え、実際にデザインすることを体験してもらう等、聞くだけでなく参加型の授業を行うため、特に準備学習は必要ないと考える。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	景観の概念 都市景観の事例その 1 (ガーデンシティの 3 都市の例)	
2	社会情勢の変化と景観 都市景観の事例その 2 (ヨーロッパ・アメリカ・オセアニア・アジア)	
3	景観の課題とその背景 都市景観の事例その 3 (日本)	
4	景観構成要素 景観のとらえ方と評価 都市景観の事例その 4 (日本)	
5	景観形成と自然 緑の景観的役割	
6	トータルランドスケープの考え方 オープンスペースの景観的役割	
7	景観計画・デザインの基礎的事項とデザインガイドライン	
8	景観計画・景観デザインの事例その 1 (緑、花、水を基調とした事例)	
9	景観計画・景観デザインの事例その 2 (歴史、文化的資産を基調とした事例)	
10	庭空間と景観デザイン 景観シミュレーションの実際	
11	ワークショップ 1 スタディ (周辺の街並み、街路、公園緑地等を対象として)	
12	ワークショップ 2 スタディ (周辺の街並み、街路、公園緑地等を対象として)	
13	ワークショップ 3 スタディ (周辺の街並み、街路、公園緑地等を対象として)	
14	景観まちづくりと観光 景観と法令	
15	景観計画・デザインの今後を考える	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
なし	景観論 G. エクボ、久保貞	筆記試験90%、受講態度10%

植物病理学

Plant pathology

《 2 単位(講義) / 2 年前期 / 専門・選択 》

担 当 者

清 水 進

2 年

授 業 到 達 目 標

植物を取り扱う上で必要な、植物の病害の原因、発生する諸条件、病気の防除方法といった病理学の基礎的な知識の習得を目指します。

授 業 内 容

植物と病原との相互関係を中心に植物の病気について説明します。また、植物の病気の診断法および植物の病気に対する防御戦略を解説致します。

準 備 学 習 等 の 内 容

動物と同じように植物にも病気があります。日頃より身近な植物の健康状態を観察して、積極的に授業に参加して下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	植物の病気と人間生活 (1)		
2	〃 (2)		
3	〃 (3)		
4	発病とは、病徴と標徴		
5	感染メカニズム、伝染		
6	病原の種類と特徴 (1)		
7	〃 (2)		
8	〃 (3)		
9	環境条件と病気の発生		
10	病気の診断		
11	主な植物の病害と防除法 (1)		
12	〃 (2)		
13	〃 (3)		
14	まとめ (1)		
15	〃 (2)		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「最新・樹木医の手引き」 日本緑化センター		「植物病理学」東京化学同人	筆記試験60%、レポート20%および受講態度20%で評価する。

造園昆虫・動物学演習

Garden Insects and Animals Practice

《 2単位(演習) / 2年前期 / 専門・選択 》

2年 担 当 者

岩 熊 志 保

授 業 到 達 目 標

緑地環境を学んでいく上で、植物だけでなく、生態系を構成する昆虫やそのほかの動物についても正しく理解しておく必要がある。そこで昆虫・動物の基礎を学びながら、自然環境全体を考えた緑地管理の習得を目指す。

授 業 内 容

野外に出て昆虫を捕獲し、実際に観察しながら昆虫の分類をしっかりと学び、生態を把握し、総合的な防除をしていくための基礎を学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

他の実習の際に見かけた動物の記録を常にするように心がける。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	生態系の構造		
2	昆虫の形態と分類		
3	昆虫の生態		
4	標本作成		
5	植物に害を及ぼす昆虫の発生と環境 (1)		
6	〃 (2)		
7	〃 (3)		
8	樹木に害を及ぼす昆虫		
9	防除方法 (生物学的防除/化学的防除/耕作的防除等)		
10	総合的害虫管理		
11	鳥獣の被害と生態/野生動物の管理		
12	野生生物の保全・保護と利用		
13	ビオトープ		
14	生物多様性について		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
最新・樹木医の手引き (日本緑化センター)		もっともくわしい植物の病害虫百科 (根本久, 矢口行雄 学習研究社)	授業態度・レポート・定期試験から総合的に判断する。 授業態度:10% レポート:10% 定期試験:80%

農薬・肥料学

Agricultural medicines and Fertilizer Science

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 専門・選択 》

担 当 者

清 水 進

2 年

授 業 到 達 目 標

緑地造成とその維持管理に発生する、土壌、肥料および農薬に関する諸課題を理解できる知識を得る。

授 業 内 容

土壌、肥料および農薬に関する基礎的な知識を習得することを目指す。また、樹木の病害虫の被害に対する対策を考える。

準備学習等の内 容

日頃より植物の健康状態に興味を持ち、授業に参加して下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	植物の成育に必要な養分	
2	肥料の種類及び性質	
3	各種土壌の特徴	
4	土壌調査手法 (実習)	
5	土壌に由来する被害の診断とその対策	
6	各要素の欠乏・過剰に対する植物の反応	
7	土壌改良手法	
8	農薬について	
9	農薬の安全性	
10	病害虫防除の適期判断	
11	緑化樹木の健康診断 (座学)	
12	〃 (実習)	
13	樹勢回復手法 松くい虫の診断とその防除対策	
14	肥料及び病害に対する模擬テスト	
15	森林・緑地に求められる役目	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「最新・樹木医の手引き」財団法人日本緑化センター	「緑地環境学」小林・福山編 文永堂	筆記試験60%、レポート20%および受講態度20%で評価する。

造園関係法規

Landscape Relational Laws

《 2単位(講義) / 2年後期 / 専門・選択 》

2年 担当者

田 沼 和 夫

授業到達
目

- ・将来、自分が関係する造園分野の造園関係法規の基礎を習得します。
- ・造園関係法規について自分で考える力をつけます。
- ・造園関係法規の最新動向を理解します。
- ・資格関連科目です。(2級ビオトープ計画管理士等)

授業内容

- ・労働基準法や都市計画法など造園関係法規の概要を理解します。
- ・11月の2級造園施工管理技士試験の基礎を学びます。
- ・実際のまちづくりや社会での出来事を事例に、造園関係法規を学びます。
- ・講義形式で、質問は、適宜受け付けます。

準備学習等の
内容

- ・事前に、法律の概要を予習する。
- ・わからない法律用語を事前に自分で調べる。
- ・現行法の課題を自分で考える。

授業計画等

授業テーマ

1	ガイダンス (1分間スピーチ) 建設業法
2	労働基準法・労働安全衛生法
3	都市計画法
4	都市公園法
5	都市緑地法
6	環境基本法・生物多様性基本法
7	自然公園法・自然環境保全法
8	土地区画整理法・宅地造成等規制法
9	建築基準法
10	環境影響評価法 (環境アセスメント法)
11	世界遺産について
12	景観法
13	造園関係法規の最新動向
14	講義のまとめ (1分間スピーチ)
15	まとめ

教科書(必須)

参考書・参考文献

評価基準

適宜、プリントを配布します。

「造園施工管理 (法規編)」
日本公園緑地協会

筆記試験70%、受講態度30%

緑地管理演習

Garden Management Practice

《 2単位(演習) / 2年前期 / 専門・選択 》

2年

担 当 者

藤原 良治・佐々木一成

授 業 到 達 標 目

造園作品・植物・公園施設等の維持管理運用に関する知識・技術を具体的作業を実習することにより会得する。

授 業 内 容

実習場や近隣施設を通して創造性を深め、より実践的で現場的な演習を行っていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

「創造と管理」を理念として二丈キャンパスの管理・利活用運用を考えていく。
樹木、草花等植物の知識習得に努める。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス／キャンパス巡回		
2	整枝剪定、サイクル堆肥材活用		
3	〃 、水質管理		
4	〃 、温室管理		
5	〃 、衰弱樹木の養生		
6	〃 、増殖		
7	病虫害防除・除草／キャンパス巡回		
8	庭園管理・芝生管理		
9	〃 ・ 〃		
10	〃 ・ 〃		
11	地域貢献学外緑地管理支援		
12	〃		
13	公園緑地の運営・利活用促進、施設管理／キャンパス巡回		
14	学外緑地管理見学		
15	まとめ・補習		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「造園施工管理 技術編」 日本公園緑地協会			演習態度50%、技術習得度30%、ポートフォリオ20%

ガーデン管理演習

Gardening

《 2単位(演習) / 2年後期 / 専門・選択 》

2年 担 当 者

藤原 良治・佐々木一成

授 業 到 達 標 目

- ・ガーデン演出の組み立てを理解して習得する。
- ・植物の性質と特徴を学習して数多くの植物名を覚える。

授 業 内 容

ガーデン演出を行う際の作業手順や作業効率などを演習を通して学習し、より合理的な取り組みを追求していきます。
メンテナンスでは、季節の移り変わりや植物の生育に応じた植栽管理を行い学習していきます。

準備学習等の 内 容

日頃から植物の生育をよく観察し、特徴を捉えて植物名を覚えていきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	ガーデン観察及びメンテナンス	
2	〃	
3	〃	
4	ガーデニング演出とガーデン演出の管理技術	
5	〃	
6	〃	
7	〃	
8	〃	
9	〃	
10	ガーデンエレメントの製作	
11	〃	
12	〃	
13	ガーデンの整枝、剪定、清掃	
14	学外ガーデン管理見学	
15	まとめ	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「造園施工管理 技術編」 日本公園緑地協会		演習態度50%、技術習得度30%、実技テスト20%

フラワー装飾

Flower Coordination

《 2単位(演習) / 2年前期 / 専門・選択 》

2年

担当者

野口 静香

授業到達
目 標

フラワー装飾技能検定試験内容であるスパイラルで作る花束、ドーム型アレンジ、ブートニア各種を習得し実技試験が近づく後半はパターン毎に決められた時間を計って試験当日の流れをイメージできる授業とします。
※花材代が別途必要です。

授業内容

全員合格を目指して頑張りましょう。技術もワンランクアップを目指しましょう。

準備学習等の
内 容

検定試験にむけた授業に入ります。
教科書「フラワーデザイン入門」の中に検定試験の作品の説明があります。
しっかり読んでおいて下さい。

授業計画等

授業テーマ		
1	3級 リボンテクニック	
2	ドーム型アレンジ	
3	↑	
4	↓	
5	スパイラルテクニックブーケ	
6	↑	
7	↓	
8	ブートニア	
9	↑	
10	試験にむけて全パターン制作 タイムを計り制作	
11	↑	
12	↓	
13	↓	
14	↓	
15	↓	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
「フラワーデザイン入門」 資格取得に役立つ	「新フラワーデザインの基礎」 社団法人フラワーデザイナー協会編	完成作品評価 50% 受講態度 40% 作品について発表(プレゼン) 10%

フラワーコーディネーション

Flower Coordination

《 2単位(演習) / 2年後期 / 専門・選択 》

2年 担当者

野口 静香

授業到達
目 標

造園、ガーデン、フラワーさまざまな素材を通して自由な発想による造形
生活空間における装飾 総合的にデザイン出来る人材育成
就職を前にビジネスマナー、接客やコミュニケーション、電話応対などもふまえて授業をすす
めていきます。
※花材代が別途必要です。

授業内容

花や関連素材を使ってデザイン、発想力を高めていきましょう。

準備学習等
の 容

数々の季節行事、歴史や装飾について、また店舗のウインドディスプレイを参考にトレンドデ
ザインや色の流行など調べてみましょう。

授業計画等

授業テーマ

1	フラワートピアリー
2	オータム ギフトアレンジメント
3	ハロウィーン アレンジメント
4	スパイラルテクニック 花束からラッピング
5	花や技を使ってフラワーバック制作
6	ドライ 木の実のオーナメント
7	X'mas アレンジメント
8	X'mas オーナメント
9	鉢もの ラッピング
10	お正月 アレンジメント
11	花の造形
12	フェーネラルの装飾
13	接客コミュニケーション
14	生活空間装飾、色彩
15	デッサンしてオリジナルのアレンジメント制作

教科書(必須)

「フラワーデザイン入門」
資格取得に役立つ

参考書・参考文献

「新フラワーデザインの基礎」
社団法人フラワーデザイナー協
会編

評価基準

完成作品評価 50%
受講態度 40%
作品について発表(プレゼン) 10%

園芸福祉

welfare Horticultur

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 専門・選択 》

2 年

担 当 者

菊 川 裕 幸

授 業 到 達 目 標

園芸すなわち身近な場所での植物とのかかわりは、私たち人間にさまざまな効用をもたらしてくれる。それらの効用を理解し、それをひきだす造園・園芸・社会福祉のあり方はいかにあるべきかを考え、将来、初級園芸福祉士として活躍できる知識、技能を習得する。

授 業 内 容

授業では、どうすれば楽しく、無理のない形で誰もが関わられるかということを本人たちの実体験のなかで学ぶことにする。園芸福祉の楽しみや難しさは実習を通じて、理論が実践にどのように結びつくかを学び取って欲しい。

準 備 学 習 等 の 内 容

他の授業で学んだ、植物に関する知識、共同作業の進め方、設計作業など専門的な手法など、全てを実習作業で生かします。必要用具の準備をすること。新しいことを学ぼうという姿勢をすること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	園芸福祉の基本的な理解		
2	園芸福祉を展開する地域システムの可能性		
3	園芸の効用 1 生産・経済		
4	園芸の効用 2 心理		
5	園芸の効用 3 環境		
6	園芸の効用 4 社会		
7	園芸の効用 5 教育		
8	園芸の効用 6 精神		
9	実践するためのノウハウやカリキュラムづくり		
10	園芸福祉の日本の現状		
11	園芸福祉の諸外国の実情		
12	活動の運営のマネジメント		
13	プログラムづくりと実習		
14	モデルプランの計画設計		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「園芸福祉入門」 進士五十八・吉長成恭監修 日本園芸福祉普及協会編 創森社出版		「日比谷公園」進士五十八 「植物と人間の絆」チャールズ・ A・ルイス著	課題提出60%、受講態度30%、演習の取り組み10%

企業実習

Practical Training of Business

《 2単位(実習) / 2年前期・後期 / 専門・選択 》

2年 担 当 者

大石道義・西川真水・宮島淳二・高宮さやか・菊川 裕幸

授 業 到 達 目 標

企業実習を通してキャリアデザインを明確にする。

授 業 内 容

①実務を通して造園・園芸・自然環境など緑地技術・技能・知識のレベルアップ②最新の業界の知識習得③企業の理念④企業の実践的な考え方と仕事の進め方⑤社会人としての心構えおよびビジネスマナー⑥就職活動の一環等を目的に造園・ガーデン・エクステリアの設計・施工・管理運営、園芸栽培・販売など、造園・園芸・自然環境に関連する分野での実習を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

受け入れ企業に迷惑を掛けることのないよう、充分留意すること。
しっかりとした目標設定を行い、積極的に研修すること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	事前研修・安全教育	
2	企業との打ち合わせ	
3	企業・団体の現場での研修	
4	企業・団体の現場での研修	
5	企業・団体の現場での研修	
6	企業・団体の現場での研修	
7	企業・団体の現場での研修	
8	企業・団体の現場での研修	
9	企業・団体の現場での研修	
10	企業・団体の現場での研修	
11	企業・団体の現場での研修	
12	企業・団体の現場での研修	
13	企業・団体の現場での研修	
14	企業・団体の現場での研修	
15	まとめと反省	
教科書(必須)	参考書・参考文献	評価基準
	就職活動ハンドブック2018 西日本短期大学進路指導部	評価は研修先の受け入れ担当者の評価(実習評価表)と実習報告書、実習日報をもとに担当教員が学則27条の規定に基づいて評価を行う

環境ボランティア演習Ⅱ

Environmental and Landscape Volunteer Practice Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年通年 / 専門・選択 》

2 年

担 当 者

佐々木一成・大石 道義

授 業 到 達 標

1. 日々学んでいることを社会に還元するとともに、学び甲斐や更なる向学心・社会職責観を涵養する。
2. 二丈実習場の豊かなみどり資源を、自身の学びの深化につながるボランティア活動を通して、地域社会に活かすことに努め、併せて実習場の活性化につなぐ。
3. コミュニケーション能力や社会性・積極的行動力を涵養する。

授 業 内 容

・二丈キャンパス園芸福祉ツアー、商店街活性化をも企図した唐人町アーケードでの「エコ&みどりの体験」教室開催、鴻巣山里山管理ボランティア、海岸における植林・間伐 etc.
 ※基本的に時間割授業ではなく、かつ学外授業が多い。
 尚、ポイント制に基づく選択受講です。

準備学習等の内 容

1. 自分の参加する項目活動について、予習・復習を怠らないこと。
2. 新聞等を注意深く閲覧し、「環境・福祉・教育・文化・保健」等の社会的課題に常々、視点を向けておくこと。
 (市民より質問を受けた場合、応答解説できるよう準備しておくこと。)

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ			
週	前 期	週	後 期
1	総合ガイダンス	1	二丈キャンパス園芸福祉ツアーⅡ (検討・企画・準備)
2	ボランティア概論	2	〃 実施・まとめ
3	環境ボランティア概論	3	海岸林間伐 (検討・企画・準備)
4	二丈キャンパス園芸福祉ツアーⅠ (検討・企画・準備)	4	〃 実施・まとめ
5	〃 実施・まとめ	5	公園イベント：グリッピーキャンペーン参画(Ⅰ)(Ⅱ) (検討・企画・準備)
6	小学校クラス環境学習教材としてのムクロジ果実の希望学校等への配送 (検討・企画・準備)	6	〃 実施・まとめ
7	〃 (実施・まとめ)	7	福岡市立こども病院クリスマスリース飾り付け・片付け (検討・企画・準備)
8	特別造園緑化ボランティア演習 (検討・企画・準備)	8	〃 実施・まとめ
9	〃 (実施・まとめ)	9	エコ&みどりの体験教室 (検討・企画・実施)
10	簡易竹編み工芸体験材の希望学校等への配送 (検討・企画)	10	生産的緑化研修(高速道路法面植栽櫓の実のチャリティー収穫) (検討・企画・実施)
11	〃 準備	11	唐人町商店街「クリスマスリース創り」教室 (検討・企画・実施)
12	〃 実施・まとめ	12	正月伝統行事「どんと焼き」参画(竹笹類調達、独楽・葉っぱ書き初め他)
13	国体道路花壇デザイン植栽 (検討・企画)	13	鴻巣山里山管理 (Ⅰ)
14	〃 準備	14	鴻巣山里山管理 (Ⅱ)
15	〃 実施・まとめ	15	総括
教科書(必須)		参考書・参考文献	
なし		「ボランティア時代のみどりのまちづくり」 進士五十八 東京農業大学出版会	
		評価基準	
		取り組み態度(50%)・各回レポート、及び総括レポート (50%)	

造園施工管理演習

Exercises in Management for Landscape Construction

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 資格・選択 》

2 年

担 当 者

佐々木 一 成

授 業 到 達 標

2 級造園施工管理技術検定学科試験合格が目標である。 検定試験は11月に全国一斉に実施されるため、試験直前に週 2 回の講義を14回まで行う。 最終講義 (15回目) は、試験終了後に試験の解答を行う。

授 業 内 容

本講は単位認定科目ではないので、筆記試験は実施しない。試験合格のため、ひたすら集中的に過去問を解いていく。学科試験終了後は、その試験の解説と解答を行う。

準備学習等の内 容

配布した受験対策問題集を繰り返し解き、得意科目・不得意科目を見出だす。不得意科目は、繰り返し学習して克服すること。 疑問に思う点は、必ず質問し、理解すること。問題集を解き、日々の過去問題を真摯に解答していく事が肝要である。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	H30年度過去問題解答・解説		
2	〃		
3	H29年度過去問題解答・解説		
4	〃		
5	H28年度過去問題解答・解説		
6	〃		
7	H27年度過去問題解答・解説		
8	〃		
9	H26年度過去問題解答・解説		
10	〃		
11	H25年度過去問題解答・解説		
12	〃		
13	H24年度過去問題解答・解説		
14	〃		
15	今年度試験問題 解答		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
なし 配布プリントによる		造園施工管理技術編 (社) 日本公園緑地協会	過去問解答成績 (50%)、受講態度 (50%)

発行日 2019年4月

発行者 西日本短期大学

〒810-0066

福岡県福岡市中央区福浜1-3-1

TEL 092-721-1141 (代表) 092-721-1152 (学務課直通)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

在学中の講義要項は、編入時の単位認定や資格取得時に提示を求められることがありますので、卒業後も各自保管してください。